

## 1 研究活動の概要

本センターでは「岩手県農業試験研究推進構想」(平成12年3月策定。以下「推進構想」と言う。)に基づき、  
バイオテクノロジー等を利用した商品性の高い独自品種の開発や胚移植技術等を利用した家畜改良  
国際化に対応できる超省力、低コスト生産技術の開発  
自動化、システム化等先端技術を利用した革新的生産技術の開発  
環境保全に配慮し、生態系を活用した持続型生産管理技術体系の確立  
地域特性を生かしたオリジナルな農畜産物の加工・流通技術の開発と販売手法の確立  
中山間地域の資源を生かした地域活性化手法の開発  
農村地域の多面的機能に配慮した農業農村基盤の整備、管理技術の開発  
栽培・飼養、経営、販売等各種管理システムを取り入れた新しい「総合農業情報システム」の確立  
など、本県の立地特性を生かしながら、新たな国際環境に対応し、持続的な展開が可能となる本県の農業を構築するため、時代を先取りした試験研究を進めることとしている。

平成13年度においては、再編整備により新たに発足した病害虫等組織の円滑な運営、プロジェクト調査研究、大学等他研究機関との連携など「研究業務の効率的推進」、各種研修や資格取得等の「研究活動の活発化」、普及組織との連携強化や農業情報システムの効果的運営など「研究成果の迅速な提供・利用」、参観デーや広報活動など「試験研究に対する県民の理解増進」、海外研修員の受け入れや専門家派遣による「国際協力の推進」に努めてきた。

また、平成13年度から新たに導入された政策評価システム並びに平成14年度実施が予定されている試験研究評価ガイドラインに対応し、平成14年度における新たな試験研究推進体制について策定した。

## 2 研究室の動き

### (1) 企画経営情報部

#### 企画情報室

研究に係る企画調整(所内組織間連絡調整、関係機関連絡調整、試験研究課題調整等)、センターに関する広報及び情報システムの整備、充実を図った。

企画調整にあつては、所内諸会議(企画運営会議、全体会議等)や委員会(研究報告等企画編集委員会等)等の運営、関係機関(国、県及び関係団体)との連絡調整(推進会議等)を行うとともに、これらを含む所内の研究推進体制の定着化を図った。本年度は、新たに政策評価システムが導入され、他方試験研究評価ガイドラインの施行が平成14年度に予定されることもあり、この動きに対応した平成14年度以降の新たな試験研究推進体制のあり方について広く検討を実施し、基本方向と具体的な実施方法について策定した。

広報関係では、広報誌「トライアングル」の発刊、参観デー(本部・畜産・県北)、現地ふれあい農業研究センター(釜石、千厩、北上、水沢地方振興局管内)、科学技術週間行事としての春季一般公開、一日子供農業研究員の開催及び「研究レポート」の発行等に取り組んだ。また、公開セミナーは「私の経営体験」(岩手阿部製粉株式会社代表取締役社長 阿部淳也氏)、「恵み豊かな岩手の食材」(料理研究家 梅津末子氏)、「畜産経営の活性化に向けた胚移植技術活用」(有)那須ET研究所所長 西貝正彦氏)、「ほうれんそうセミナー」(伊藤正人氏、岩脇ヨシエ氏)により、本センター及び畜産研究所、県北農業研究所を会場に実施した。

#### 農業経営研究室

農業経営の改善方策、担い手の育成方策、中山間地域活性化、県産農産物の販売戦略及び開発技術の経営評価等に関する研究を実施している。

農業経営の改善方策では、水稲作で実践されている民間3農法の特徴を整理し、いずれも慣行農法より物財費が増加するが、高価格での販売により所得を向上させており、その生産規模は収量水準や米の品質よりも販路や労働時間により規定されていることを明らかにした。地域農業の視点からは、県南部沿岸地域の圃場整備地区における意向調査や生産組織の調査から地域農業再編のための課題を提示した。

担い手の育成方策では、主業型農家のアンケート調査分析から、経営管理の実施状況、農業情報入手及び必要とする情報並びに経営者としての将来の経営意向等を整理し、今後の主業型農家育成対策のための基礎資料とした。

中山間地域活性化に関する研究では、中山間地域等直接支払制度の活用方策を解明するため、集落や市町村における取り組み事例分析から、集落の活性化につなげる制度活用上の課題を提示した。

県産農産物の販売戦略に関する研究では、花壇苗の市場データ分析から、県内の花壇苗産地においては、需要が安定している春出し出荷も見据えた生産戦略が必要であるとともに、出荷先も秋植え需要が伸びている東北地域への出荷を増やすことが販路拡大にあたって検討が必要であることを提示した。また、県外の先駆的な野菜産地においては、小規模生産者を取り込んで、直売所やインショップなどの販売先の確保による他品目少量生産体制の確立が生消間の情報交換の活発化と的確なニーズ対応を実現し、販売額の増大に結びついていることを明らかにした。

ダイコン・キャベツ作における省力機械化技術体系の経営評価では、慣行技術に対する省力効果と機械導入にあたっての必要規模を提示した。

## (2) 農産部

### 水田作研究室

水稻の品種選定、直播を中心とした省力・低コスト栽培技術確立、作柄解析、高品質・良食味米の安定生産技術確立研究及び水稻原種・原々種の生産業務に取り組んでいる。

奨励品種決定調査では、「岩南糯 19 号」はヒメノモチより熟期がやや遅く、餅加工適性に優れることから奨励品種に編入するとともに、予備調査においてうるち 5 系統を有望と認め、新たに現地調査に供することとした。

県産米はひとめぼれが 8 年連続の“特 A”評価を、新品種「いわてっこ」は“A”の評価を得た。これら県産米の良質・安定生産技術確立のため、平成 13 年産米の作柄成立要因（作況指数 101、一等米比率全国 2 位）の解析と、産米の品質評価向上技術として、「ひとめぼれ」についての自然乾燥と機械乾燥の刈取適期の違いについてとりまとめるとともに、食味改善診断システムの開発に着手した。

雑草防除関係では、移植栽培における効果の高い水稻除草剤 3 剤（初期剤 1 剤、初・中期一発剤 2 剤）を県防除基準に採用するとともに、水田雑草の最小限防除法について検討した。

省力・低コスト技術として期待される直播栽培技術については、代かき土中点播栽培の出芽・苗立ち、水管理、適用除草剤について検討し、その成果を「ひとめぼれの直播導入可能域」及び「直播栽培における雑草防除法」としてとりまとめた。また、水田農業確立の一環として WCS 用イネの刈取時期の判断指標を示した。

水稻原々種は 8 品種(78 系統)586kg、原種はうるち 6 品種 22,480kg、酒造好適米 1 品種 38kg、もち 3 品種 3,560kg（岩南糯 19 号含む）を生産した。また、優良種子生産のため、発芽能力の検定法及び浸種条件（水温・浸種期間）について継続検討した。

### 水稻育種研究室

水稻品種開発に関わる試験研究は、前年に「いわてオリジナル水稻品種開発事業」の第 1 期（平成 2 ~ 1 2 年度）が終了し、本年度から第 2 期（平成 1 3 ~ 2 2 年度）の計画が開始された。第 2 期では、主食用品種では、農業や化学肥料の低投入等に適応できる“環境に負荷の少ない栽培に適した品種”、気象変動の大きい地帯向けとして耐冷性が強く、良食味・品質を兼ね備えた“気象変動に対応できる安定生産品種”、低温発芽性や耐倒伏性に優れた“省力低コスト生産に向けた直播用品種”の開発を目標とし、さらに、新規需要等に対応した品種として、従来の“もち品種”“醸造用品種”の他に、業務用や加工米飯の需要が高まっている“低アミロ - ス品種”、飼料用としての利用も視野に入れた“超多収品種”、機能性食品として期待できる有色素米・巨大胚・低グルテリン米・低アレルギー米等の“新形質米品種”の開発に着手した。

各種特性検定試験や生産力検定試験の結果、岩手 65 号（早生の早・いもち強・穂発芽難・多収・良食味）、岩手 66 号（早生の早・いもち強・穂発芽難・多収・良食味）、岩手 67 号（早生の早・耐冷性極強・良質・良食味）、岩手 68 号（中生の早・強稈・耐冷性極強・いもち強・多収）、岩手 69 号（晩生の中・耐冷性極強・穂いもち強・良質・良食味）の主食用 5 系統に地方番号を付し、平成 1 4 年度の奨励品種決定調査用の新配布系統とした。熟期が「ヒメノモチ」よりやや遅い「中生の晩」に属し、耐倒伏性がやや強で「ヒメノモチ」より優れ、外観品質が「ヒメノモチ」並、餅加工適性が「こがねもち」並の「岩南糯 19 号」を水田作研究室と共同で成果としてとりまとめ、県奨励品種とした。

### 応用生物工学研究室

当研究室は、1．遺伝子組換え作物の特性調査、2．地域遺伝資源の利用、3．革新技術支援の 3 つの重点課題に沿って研究を実施している。

- 1．遺伝子組換え作物の特性調査：生工研で育成した組換え水稻やリンゴの特性調査を実施し、水稻では閉鎖系温室内における検定対象病害であるいもち病の安定した誘発技術と、接種技術について検討中である。リンゴでは、キチナーゼ遺伝子導入主要品種 8 系統について、4 種の糸状菌病に対する検定を終了し、新たな遺伝子導入系統の検定に着手している。
- 2．地域遺伝資源の利用：主に増殖技術の開発を内容とするこの区分では、リンドウ F1 品種の採種用親株の増殖に関して、主要 4 系統の順化育成技術を明らかにし、成果としてとりまとめた。今後はこれらの均一性について検討し、増殖システムを確立する。また、本県育成のスターチス「アイスター」シリーズの種苗増殖については、その増殖システムを明らかにし、成果としてとりまとめた。農業新技術現地実用化（21 世紀型）で取り組んでいるサトイモの産地強化試験では、二子芋を材料に 1 年目培養苗定植株の利用技術について、成果としてとりまとめた。今後さらに貯蔵性や 2 年目の生育について検討する予定である。

3. 革新技術支援：水稲の DNA マーカーを利用した育種手法の開発では、マーカーの検索を継続すると共に簡易な DNA 抽出方法に一応の目処が見ついた。病害の診断技術では、市販キットの実用性を検討し、特徴的な病徴を示したシートと組み合わせたピーマンの実用的なウイルス診断手法を成果としてとりまとめた。また、近年実害の大きいキクの TSWV の局在性について成果としてとりまとめると共に、本県育成オリジナル小ぎく品種「アイマム」シリーズがウイルスに汚染していないことを確認した。

### 生産工学研究室

水稲の省力低コスト研究として、水耕ロングマット育苗・移植技術について平成 11 年度より地域基幹研究として農水省農業研究センターを中心に茨城、長野、埼玉の農業試験研究機関と共同で取り組んできたが、本年度は水耕苗の簡易な水管理及び施肥法を中心に検討した。また、北上市及び石鳥谷町の農家で本田での現地実証試験を実施した。省力低コスト研究のもう一つの柱である直播研究については、打ち込み式直播機の播種量や作業速度の試験を昨年に引き続いて行った。また、ラジコンヘリによる散播直播について作業性能を中心にとりまとめて研究成果とした。

資源の省力化や環境問題に配慮してもみから成型マットの開発が生研機構・全農を中心に行われたが、その育苗方法や導入条件を平成 11 年度から検討しており本年度研究成果としてとりまとめた。

側条施肥技術は寒冷地の初期生育確保対策や施肥量の低減技術として利用されてきたが 6 月中下旬の葉色低下が課題となっていたが、緩効性窒素を含むペースト肥料が開発され、その田植機の作業性能と施肥法についてとりまとめた。

大区画圃場における自動水管理システムや地下かんがい地下排水技術などの整備技術については平成 9 年度から検討してきておりその活用法等について研究成果としてとりまとめた。また、暗渠の被覆材や畦畔シートについて評価し、選定資料として研究成果とした。

野菜作の機械化に関しては、キャベツを対象とした収穫運搬車について労働負荷等を加味した性能調査をとりまとめ研究成果とした。また農作業における労働負担測定マニュアル及び農作業事故データベースについて研究成果をとりまとめた。

## (3) 園芸畑作部

### 果樹研究室

果樹研究室では、リンゴの栽培試験および品種改良を主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。

リンゴでは、JM 台木を利用した省力的な低樹高化栽培による省力化、軽労化、低コスト化技術の開発を目標に、新技術地域実用化研究促進事業により「リンゴわい化栽培における省力・安定生産のための JM 台木利用・早期成園化技術の開発」試験を進めている。本年度は土壌、品種別に、JM 1 及び JM 7 の台木利用法を明らかにした。更に、苗木の短期安定増殖技術の確立に努めている。また、これまでの外観本位から、消費者が求める食味本位の果実生産に重点を置いた省力栽培技術の開発を目指し、昨年度から地域基幹農業技術体系実用化研究として、「新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感リンゴの生産技術」の研究に取り組んだ。この課題は、着色管理を限りなく省力した食味本位のリンゴ（葉取らずリンゴ、糖度保証リンゴ、蜜入りリンゴ、丸かじりリンゴ等）を安定的に生産し、栽培コストの低減を図るとともに、非破壊選果機を高度に利用した品質評価技術により、手頃な価格で消費者が満足する果実を提供する技術を確立し、需要の拡大を図ろうとするものである。

品種改良では、「きおう」に続く岩手の地域特性を生かせる、早・中生種を主体とした交雑育種に取り組んでいる。本年度までに 26 系統を二次選抜に編入し、うち 8 系統について有望系統として岩手番号を付した。

ブドウでは、短梢棚を活用した大粒種の栽培技術開発及びヤマブドウの結実促進技術の開発に着手した。また、品種開発では 5 系統を二次選抜に編入し、特性検定を進めている。

西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーについては、国内外の有望品種の本県への適応性と特性検定を主体に試験を実施している。

### 野菜畑作研究室

畑作物、野菜研究ともに規模拡大及び水田高度利用に対応した作目再編、新栽培方式の確立に取り組んでいる。畑作物では、実需者ニーズに対応した高品質・安定生産技術及び超省力・低コスト生産技術体系の確立が求められており、優良品種選定・栽培法試験に加えて、地域基幹研究「不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力栽培技術の確立」等に取り組んだ。

野菜では、試験最終年次を迎えた、果菜類におけるセル苗利用を前提とした省力・軽労化・低コスト生産技術確立試験や重点課題であるトマトの点滴灌水同時施肥試験等に引き続き取り組んだ。

本年度の成果としては、「普及」及び「指導」区分で、青大豆「東北 141 号」の選定、大豆不耕起栽培の栽培特性、大豆の晩播密植・狭畦栽培技術、小麦新品種「ネバリゴシ」の栽培法、小麦の冬期播種栽培技術、きゅうり定植用セル成型苗の緊急時短期貯蔵技術、雨よけトマトのセル苗直接定植における収穫期拡大技術、キャベツ品種「夏さやか」の県南部における導入作期、の合計 8 つをとりまとめた。

## 花き研究室

花き研究室では、国際化や消費動向の変化に対応できる寒冷地型省力的花きの生産技術を確立するため、重点品目を中心としたオリジナル品種の育成を図るとともに、気象条件を活用した新商材の開発や長期継続出荷できる生産技術の確立に取り組んでいる。

品種開発では、りんどうの極々早生品種や新しい花色・花姿の品種を育成すること、スプレータイプの小ぎく「アイマム」シリーズの花色・開花期の幅を広げること、スターチス「アイスター」の花色の幅を広げること、ゆりの小輪系や無葯系品種等を育成すること、を目的に選抜を行った。本年度は、小ぎくの「アイマムホワイトピーチ」を育成し、県の奨励品種とした。

新商材開発では、枝物花木について品目選定と栽培特性の解明、効率的増殖法と育苗技術の確立、栽植方式や整枝・仕立て法の確立、等を進めるとともに、「いわて乙女」の安定生産技術の確立や切花用りんどうの鉢物化技術の確立に取り組んだ。

長期継続出荷技術については、小ぎくの作期拡大や鉢物りんどうの開花調節等に取り組んだほか、新たに宮古地域において、施設を利用した花き周年生産モデル経営の確立実証に着手した。本年度は、夏秋ぎく系小ぎくの親株加温による作期の前進、沖縄系小ぎくに対するエスレル処理効果、鉢物りんどう「こりん」の鉢上げ直前の摘心による省力化並びに親株加温時期等による開花調節技術について成果を取りまとめた。

## 南部園芸研究室

県南部や沿岸地域の恵まれた気象条件を活かした野菜花卉園芸技術の開発研究とともに、特色ある園芸産地形成のための地域実証試験を実施している。なお本年度から、標高 15m の平坦地にほ場を移転し、栽培試験を開始した。

花きに対する試験では、トルコギキョウの短日処理技術を利用した秋だし作型で電照の効果について検討した。さらにストックの秋出し作型では太陽光発電を利用した高品質生産技術の検討をおこなっている。秋出荷花壇苗高品質低コスト生産技術では、わい化剤の使用効果について検討した。また本年度の成果として、ラークスパーの短日処理による高品質栽培法を取りまとめた。

野菜に関する試験では、引き続きいちごの短日処理を利用した秋出し作型の確立に向けた試験を行うとともに、省力化、高品質栽培技術の確立を目指して少量土壌培地耕によるイチゴベンチアップ栽培やトマト栽培に取り組んでいる。また高規格ガラスハウスを利用したトマトの養液栽培による周年生産技術の実証も行っている。

## (4) 生産環境部

### 環境保全研究室

化学肥料や農薬に起因する環境負荷軽減、環境保全型農業技術の総合組立てに関する試験研究に取り組んだ。

環境負荷軽減に関しては、前年に引き続き育苗箱施用剤の水田での消長を調査し、殺虫成分についても水面施用剤に比べ河川への流出の可能性が低いことを明らかにした（試験研究成果（指導））。また、現在流通している生分解性プラスチックマルチについて、資材別に分解速度等を明らかにし、各作物栽培に対応した選択のめやすを示した（試験研究成果（普及））。さらに農用地土壌汚染対策指定解除地域における土壌、玄米中のカドミウム濃度について 5 か年間継続調査し、問題のないことを確認した（研究成果（行政））。その他、環境教育で注目されているケナフの生育特性を検討した結果、夏期高温年で草丈は約 3 m となること、開花数は極めて少なく本県では採種は困難であることなどを確認した（研究成果（行政））。また、今年度から農薬の水田生態系への影響評価、水田等における生物保全対策関係に着目し、育苗箱施用剤のトンボ幼虫に及ぼす影響や水田に生息する水生生物の種類等を調査するとともに、夢泉土いわて創造研究推進事業で里山保全のための研究について予備調査を行った。

環境保全型農業技術の総合組立てに関しては、水稻の減農薬栽培技術の確立に向け、種物の温湯消毒とプール育苗を利用した場合の発芽率と病害発生状況を把握した。また、本田期においては、いもち病を対象に抵抗性品種の利用とケイ酸資材の投入により、農薬の低減が可能との結果を得た。野菜関係では、アブラナ科害虫防除を重点としたキャベツの無農薬栽培試験に取組み、作期の選択による被害回避及び防虫ネットの有効性を確認した。有機農産物の生産条件の解明では、トマト、ピーマンについて土壌条件、生産物の栄養成分（ビタミン C 含量）等について調査したが、今のところ慣行栽培との違いは明確でない。

## 土壤作物栄養研究室

土壤作物栄養研究室の重要事項として、第1に畜産県岩手で大量に発生する家畜糞尿の循環利用促進がある。昨年に引き続き普及センターの収集した堆肥の品質評価と分析を実施し、その結果を品質面では「家畜糞堆肥の品質は外観とECにより簡易に評価できる」(指導)、品質と成分特性は「家畜糞堆肥の特性評価システム」(指導)に取りまとめ、次年度普及センターで行う堆肥の化学肥料代替実証試験のための目安を提供した。

第2に持続的生産技術確立があり、従来以上に土壤診断や作物栄養診断が必要となる。これまで無リン酸栽培のできる水田での可態リン酸水準を明らかにしたが本年度は無カリ栽培のできる水田土壤中交換性カリ水準を明らかにし「土壤中カリ40mgで水稻無カリ栽培が出来る」(指導)に取りまとめた。また地力窒素の簡易測定法も「一日で出来る地力窒素の簡易評価法」(研究)に取りまとめ水田土壌での有効性を示した。更にエコファーマーが使える技術開発として肥効調節型肥料の野菜への応用にも対応し「基肥一回無追肥によるピーマンの減肥栽培」(普及)に取りまとめた。持続型農業のための有機質肥料研究も取りまとめ年であるが、BSE問題のある輸入肉骨粉が原料に含まれ使用不可能となった。今後は県内の安全な有機物を利用した有機質肥料を検討する必要性が生じた。

第3に土壤環境容量評価があり、有機物・施肥管理による変化を常に監視することが重要である。定点土壌モニタリング調査の4巡間述べて20年のデータを「県内水田土壌の15年間の有機物・施肥管理と化学性の変化」(指導)と「県内畑地土壌の15年間の有機物管理と化学性の変化」(指導)に取りまとめ、土壤養分増大と酸性化やCEC増加等の土壤環境容量の変化傾向を明らかにした。

その他、地域的な農家要望が高いりんどうこぶ症対策にも花き、病理昆虫研究室と協力しつつ土壌肥料的な検討にも着手した。

## 保鮮流通技術研究室

農産物の品質評価技術、高鮮度流通技術及び地域特産加工食品開発等に関する研究に取り組んだ。

農産物の品質評価技術では、養液土耕栽培のトマトについて内容成分的な品質と栽培条件の関連性を検討し、収量水準が同等であれば養液土耕栽培と慣行栽培の間に品質的な差異はないことを明らかにした。また、トマトの美味しさ評価指標として糖度が利用できることを明らかにした。寒締め菜っぱのビタミンCは、RQフレックスによる簡易測定法でほぼ測定可能なことが示唆された。野菜の内容成分改善のため、経済連との共同研究を開始した。

高鮮度流通技術では、高温時のキャベツ・レタスの冷却不足を解消するための予冷条件を検討するとともに、蜜入りりんごの低温高湿条件下での貯蔵について検討し、蜜入りりんごであっても約6ヶ月間貯蔵可能であることを明らかにした。また、冰雪を冷熱源として利用した簡易高湿予冷庫の構造等について取りまとめた。

地域特産加工食品開発等については、雑穀の加工適性や加工品開発に取り組み、雑穀のでんぷん特性を明らかにするとともに、雑穀のレトルト食品を試作した。大豆の氷菓製造技術について検討し、大豆臭が少なく、食感、食味ともに評価の高いラクトアイスのレシピを作成した。また、木の実や茸など県内特産物のビタミンC、ミネラル、抗酸化活性を取りまとめ栄養成分表を作成した。

本年度の研究成果として、「キャベツ・レタスにおける夏季高温期の真空予冷庫設定条件」(普及)、「木の実や柿の葉はビタミンCが豊富で抗酸化活性が高い」(指導)、「ひえ、あわ、きびのでんぷん特性」(研究)、「冰雪を活用した簡易高湿予冷庫の開発」(研究)、「トマトとピーマンの美味しさと理化学性の関係」(研究)の5課題を取りまとめた。

## (5) 病害虫部

### 病理昆虫研究室

当研究室は組織再編により、平成13年度から新たに発足した病害虫部に病理昆虫研究室として組み込まれ、今年度は病害虫制御技術開発を支援するための病害虫発生生態の解明、生態系を活用した病害虫制御技術の開発、昆虫機能の活用技術の開発に取り組んだ。

病害虫発生生態については、斑点米の原因となるアカスジカスミカメ、イネドロオイムシなどの水稻初期害虫、畑わさびの新害虫ミドリサルゾウムシについてそれらの生態に基づいた防除対策を示し成果公表した。果樹病害では近年多発しているリンゴ炭そ病の発生特徴、病原菌及び伝染源を明らかにした。花き病害ではリンドウ褐斑病の発生生態を明らかにし、効果的な防除法を示した。また、キクわい化病については、ウイロイドフリー母株を選抜するため、ハイブリダイゼーション法による実用的な診断法を確立し、いずれも成果として公表した。

生態系を活用した病害虫制御技術として天敵・微生物等自然生態系の活用、作物の生理・生態的特徴を利用した病害虫制御技術、省力・低コスト病害虫防除技術について検討した。これらの中から、生物農薬「シュードモナスCAB-02水和剤」によるイネ育苗期の細菌病の防除法、ヒドロキシイソキサゾール粉剤による雨よけほうれんそうの立枯病、根腐病の防除法を普及に移す成果とした。またオキソリニック酸耐性イネもみ枯細菌病の防除対策、カルプロパミド粒剤の播種時施用によるイネいもち病の新たな防除体系、捕食性土着天敵ヒメハナカメムシや近紫

外線カットフィルム利用によるハウス内アブラムシ類、アザミウマ類の密度抑制効果について成果公表した。

昆虫機能活用技術として和・洋装向け高級細織度生糸を生産する新たな三眠蚕系統を育成した。

なお、りんどう産地で数年来発生が目立っているりんどうこぶ症の原因解明について栽培部門、土壌肥料部門と共同で次年度から試験に着手することとした。

## (6) 畜産研究所

### 家畜育種研究室

本県の気候・風土に適し、高品質・低コスト生産が可能となる優良種畜の作出（造成）や肥育技術の向上のための技術確立に取り組んでいる。

日本短角種の優良種雄牛の作出について、直接検定 26 頭を実施し、1 日当たり平均増体量（D G）は 1.19kg（選抜牛 1.24kg）であり、10 頭選抜（選抜率 38%）した。間接検定は「川辰」「玉 97018」「岩国」「良川」「藤幸」の 5 種雄牛について実施し、「良川」の肉質が優れ人工授精用基幹種雄牛として選抜した。

黒毛和種肥育素牛の早期能力判定技術の確立について、21 ヶ月令の生体超音波測定で脂肪交雑  $r = 0.69$  の相関が得られ、また 16 ヶ月令と 21 ヶ月令の生体超音波測定値から能力に応じ短期肥育と長期肥育に区分し肥育実証した結果、高能力牛と推定した長期肥育は全て肉質 4 等級以上となり、肥育経営の改善技術として期待できることを明らかにした。

平成 5 年度から取り組んでいたランドレース種の新たな系統造成について、7 世代において肢蹄強健な全国トップクラスの産肉能力に優れた系統造成が完了し、平成 13 年 7 月に（社）日本種豚登録協会から認定を受けるとともに、「イワテハヤチネ L2」と名付けられた。

岩手県在来種である天然記念物「岩手地鶏」を活用し、本県独自のオリジナル高品質肉用鶏を作出するため、平成 8 年度～12 年度に軍鶏 ×（有色コーニッシュ × 岩手地鶏（赤笹））の交配鶏を 4 世代選抜し、発育能力の高い基礎鶏を作出した。本年度は、この基礎鶏に最も適した交配法を決定するための組み合わせ試験を実施した。

### 家畜飼養研究室

自然環境への配慮と飼料自給率向上を基本とした生産性の高いゆとりある酪農経営を構築するため、超省力管理技術及び資源循環型酪農の飼養管理技術の確立に取り組んでいる。

完全自動（ロボット）搾乳機等を応用した超省力管理技術では、搾乳に係る労働時間はパーラー搾乳と比較して、1/2 以下に削減され、作業内容も著しく軽労化した。また、TMR（完全混合飼料）の不断給餌と 1 日平均 3 回搾乳により産乳量は約 11% 増加した。自動給餌機及び自動堆肥装置の応用では、現行法と比較してそれぞれ約 1/5 及び 1/4 に労働時間が削減した。

搾乳牛（泌乳後期牛）の時間制限集約放牧では、併給飼料を組み入れ安定した乳量・乳成分の確保と、適正な体重を維持し乾乳することで周産期病（ケトosis、第四胃変位等）の予防が可能であることを実証した。

子牛の育成期飼養管理技術では、1 日 4 リットルの初乳を確実に給与することで、十分な免疫が獲得され良好な発育が確保された。また、初産牛と経産牛の初乳中免疫グロブリン量はほぼ同等であることを確認した。

高泌乳・高蛋白牛群飼養管理技術では、ET 技術により高能力牛の造成を進めるとともに、TDN 濃度の調整による蛋白質の効率的利用について検討している。

機械搾乳（ロボット、パーラー搾乳）が乳腺細胞に及ぼす影響については、どの個体でも分房間に産乳量の差（未経産牛より経産牛で分房間の乳量差が大きい傾向を示した）があるため、ミルカーが一括離脱する搾乳方法では、早く搾りきった分房ほど過搾乳の状態に陥りやすいことが判明した。

### 家畜工学研究室

牛の改良と増殖及び胚移植技術の定着を促進するためにバイオテクノロジー技術の基礎試験と応用化研究について取り組んでいる。

胚移植技術では、胚の安定確保をはかるため供胚牛に対して脂肪酸カルシウムを過剰排卵処理前後 11 日間、飼料に添加したところ、総コレステロール値が有意に上昇し高い正常卵率を得た。加えて回収胚数の増加は、発情期の甲状腺ホルモンの関与が新知見として示唆され、ホルモンの利用特性について解明が課題提起されている。生体から経膈法で未成熟卵子を採取し、体外受精技術を活用して胚生産を試みた結果、個体の明らかな移植可能胚の生産が可能となった。しかし、経膈採卵前後の FSH 製剤投与は未成熟卵子の数的増加は認められなかった。

胚の保存技術開発では、凍結前後の形態観察と発育性及び移植成績からガラス化法が優れた技術であり、高価なプログラムフリーザーを必要とせず、短時間で処理ができ、性別別胚や生体胚の保存に利用できることを明らかにした。

短期種雄牛造成技術の確立を目的とした体細胞クローン技術では、線維芽細胞をドナー核とした再構築胚による

産子を得、さらに胎児由来の羊水浮遊細胞をドナー核とした再構築胚の作成のための基礎試験を実施している。

遺伝子解析では、遺伝病の原因遺伝子特定などで成果をあげているDNA解析を、複数の遺伝子が関与している脂肪交雑などの量的形質にも応用するため、経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析を継続実施した。その結果、大規模半兄弟家系の解析から脂肪交雑及び枝肉重量に強く連鎖する領域をみいだした。一方、黒毛和種の産子に発生する半致死性遺伝病の内水頭症について、原因遺伝子特定のため産子の再現試験から解析を実施している。また、日本短角種に発生した筋肉肥大（Double-Muscle）について遺伝子診断法を確立し、産肉成績から疾病の病態を総括した。

## 飼料生産研究室

本県の畜産を安定的に推進するため、良質粗飼料の効率的な生産と圃場還元を目的とした家畜糞尿処理技術の開発のために試験に取り組んでいる。

とうもろこしの品種選定：国・公立機関で育成された系統のうち北海道農業研究センター育成系統1系統、畜産草地研究所育成系統2系統、長野県中信農業試験場育成系統1系統、計4系統について検討した結果、標準品種に優れる系統は認められなかった。市販とうもろこし品種では早生種の「KD520」と晩生種の「33G26（パイオニア118日）」が、耐病性、乾物収量、TDN収量とも標準品種に比較し優れていることが明らかにされ推奨品種候補として提案した。

牧草の品種選定：採草用草種ではオーチャードグラス極早生種の「アキミドリ」が耐病性、収量性に優れていること、チモシーグラスでは中生種の「ホクセイ」で収量が高く適応地域が広いことが明らかにされ、これら2品種を奨励推奨品種候補として提案した。

粗飼料の簡易品質評価法：小型反射式光度計（商品名：RQフレックス）による粗飼料の硝酸態窒素測定方法の検討を行った結果、公定法である液体クロマトグラフ法との相関係数が0.97以上と高い結果を示したことから、同法による硝酸態窒素の簡易定量分析が可能であることを明らかにした。

家畜糞尿処理：県内に導入された3方式（スクープ式、密閉縦型、ロータリー式）の堆肥化施設の調査結果を基に、50～60頭規模の酪農経営において個々の経営体が導入する施設選択のための参考資料とすべく、各々の堆肥化性能、コスト面等の特徴を明らかにし、導入指針を作成した。堆肥化性能はスクープ式が季節変動が少なく良好であった。コスト試算ではロータリー式が低コストであったが冬期の堆肥化性能低下が欠点である。密閉縦型は電気代がかかるが戻し堆肥やプロイラー鶏糞等の混合投入によりオガクズ等の副資材を軽減できる。

## 外山畜産研究室

中山間地域に位置する本研究室では立地特性である豊富な草資源を活用して、放牧飼養形態を取り入れた肉用牛の試験研究に取り組んでいる。

市場評価向上を目指した黒毛和種放牧子牛の集約放牧育成技術の確立については、放牧子牛が舎飼子牛と同程度の発育（日増体量：DG0.9kgを目標）ができるように、牛・草および施設面から検討している。親子放牧において、子牛に体重比1%量を限度として補助飼料を給与することで、開牧当初から放牧した子牛はDG0.9kgを達成できた。途中入牧した子牛の発育は目標には達しなかったものの、前者と別群にすることでDGの向上を図ることができた。集約放牧地における牧草の季節生産性については休牧間隔を10日とした輪間放牧及び肥料の種類に関係なく初夏施肥をすることで生産量の平準化が図れた。牛のストレス防止や蹄病予防を目的として放牧地の水飲み場周辺等の泥濘化している場所にカキ殻を応用したところ、泥濘改善効果が認められた。漁業系廃棄物であるカキ殻は三陸沿岸から容易に入手でき、低コストでしかも移設が簡単であり、泥濘化改善資材として推奨できる。

日本短角種繁殖経営における黒毛和種胚移植技術の導入効果を検討した。夏山冬里方式で親子放牧を行う日本短角種繁殖経営において、放牧前に黒毛和種の胚移植を1回実施し、不受胎時には自然交配を行う体系を導入した場合、胚移植の受胎率が30%以上であれば、経営的なメリットが期待できることが明らかになった。

## 種山畜産研究室

黒毛和種改良事業「いわて和牛改良増殖対策推進事業」の一環として、県内山黒毛和種種雄牛候補22頭を選抜するとともに、畜産研究所生産の受精卵雄産子7頭計29頭の直接検定を実施し、年度内に16頭終了、残り13頭については平成14年6月に終了する。全頭終了後検定成績、血統、体型、母牛の育種価等総合的に検討し、後代検定「間接検定実施牛6頭」および「現場後代検定実施牛3頭」を選抜する。

平成9年度の直接検定により選抜された「<sup>きくきょうふく</sup>菊京福」「<sup>だい ますおうさかえ</sup>第3益王栄」「<sup>よしきくふく</sup>義菊福」「<sup>きたたかふく</sup>北孝福」「<sup>きくけんた</sup>菊賢太」「<sup>きくつるゆき</sup>菊鶴雪」の6頭について間接検定を実施し、以下の成績が得られた。

ア．一日あたり増体量(kg)

第3益王栄(0.92) > 菊賢太(0.89) > 菊京福(0.86) > 菊鶴雪(0.84) > 北孝福(0.82) > 義菊福(0.76)

イ．ロース芯面積( )

北孝福(51) > 北京福(48) > 菊賢太(47) > 義菊福・菊鶴雪(42) > 第3益王栄(41)

ウ．脂肪交雑(BMS)

北孝福・菊鶴雪(3.0) > 菊賢太(2.7) > 菊京福(2.6) > 義菊福(2.0) > 第3益王栄(1.8)

平成13年度間接検定が終了した種雄牛のうち、「北孝福」「菊鶴雪」が脂肪交雑の成績が全国平均を上回ったことから、県有種雄牛に選抜された。また、「菊京福」「菊賢太」も間接検定の成績が県の選抜基準を上回ったことから、凍結精液の供給を開始した。

平成12年度開始した「現場後代検定」実施候補種雄牛4頭については、平成14年11月までに肥育が終了し、と畜、枝肉格付成績の収集、分析を行って得られた産肉能力により選抜の予定。

## (7) 県北農業研究所

### 営農技術研究室

土壌管理、病虫害防除、機械化などの営農技術の開発や自然生態系活用型農業技術の開発を目標に研究を実施しており、他の研究室と連携した取り組みを行っている。

環境保全型農業技術の取り組みとして、生分解性プラスチックマルチの利用法を検討した。当研究室ではすき込み後の後作への影響を明らかにし、環境保全研究室等との連携により各種資材の特性としてとりまとめ研究成果とした。また、省力・減肥技術として期待される畦立て同時畦内施肥技術についても検討した。

野菜の病虫害関係では、病虫害防除所と連携してネギの主要害虫であるネギハモグリバエの発生生態を明らかにし、発生時期の予察ができることを示した。また、キャベツ根こぶ病の総合防除のため、主要産地における根こぶ病の菌密度 - 発病曲線を明らかにし、減農薬栽培技術に資する知見を得た。

野菜の機械化技術に関しては、生研機構との連携で、ほうれんそうの包装機について取り組み、実用性について検討した。

情報技術関連の取り組みとして畑地かんがい地区を対象とし気象情報による土壌水分予測技術について検討した。

### 産地育成研究室

県北地域における野菜、花きの地域適応性技術の確立及び開発技術の現地実証に関する研究を実施している。

野菜では、優良品種選定試験としてキャベツ・ほうれんそう・だいこんの3品目について実施し、平成13年度はほうれんそう1品種を「推奨品種」として普及に移した。

地域基幹研究「野菜の省力機械化体系を基幹とした大規模畑輪作技術」では、子葉奇形苗の選別除去と差し替えが生育斉一化や収量・品質の向上に与える効果について、またキャベツ、だいこんの前作にエン麦(ハイオーツ)を導入した輪作体系の大野村現地圃場における5カ年の実証結果について、それぞれ研究成果とした。

雨よけほうれんそう大型経営体育成のための技術開発として、ほうれんそうの遮光技術やかん水方法及び効率的な生産方式について、普及センター設置のリーディングファームと連携し検討した。

花きでは、地域基幹研究「中山間地域における産地マーケティングに基づく特産的高付加価値農産物の生産技術」において、中山間地域に適した有望品目として宿根草13品目・花き4品目を選定しその特性等を研究成果とした。

この他、21世紀型農業経営モデル実証試験(一戸町)では、秋だしパンジーを中心とした花壇苗の周年生産技術やガーデニング用素材の検討、またグランドカバープランツについては、法面保護と景観形成のための法面の省力的な雑草管理法や種子散播による低コスト法面被覆方法について検討した。

### やませ利用研究室

県北地域を対象とした水稲、普通作物(小麦、大豆等)雑穀類の栽培法や品種の選定及び葉たばこの環境保全型栽培技術に関する研究を実施している。

水稲では、12年度に県奨励品種に採用した、良食味・耐冷性に優れた県オリジナル新品種「いわてっこ」の期待生育量を明らかにし、そのための栽培法を研究成果としてとりまとめ普及に移した。

小麦、大豆等の普通畑作物では、県北地域に適応する多収・良食味品種の選抜・育成を目標に、国や北海道立農試で育成した系統を導入しての試験を実施し、大豆では緑豆系統の「東北141号」が有望であることを確認し、奨励品種に採用した。小麦では新品種「ネバリゴシ」の栽培法を明らかにし研究成果とした。雑穀類ではヒエの無農薬水田栽培法を確立・実証し、研究成果にとりまとめ普及に移した。

一方、葉たばこに関連する調査研究では、緊急な課題となっている廃プラ処理対策の一つとして、生分解性マルチ新資材の検討を継続し、資材別の特徴と使用目的に応じた選定法をとりまとめ研究成果とした。



3 平成 13 年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

推進構想分野 担当部署	総課題数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	R	S	T	U	V	W	X
		水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	酪農	肉畜	草地飼料	作物バイオテク	家畜バイオテク	環境保全	土壌作物	病害虫	農業農村	生産システム	農村整備	地域活性化	やませ利用	生物機能	有機農業	保鮮流通	農産物加工	情報利用
企画経営情報部	28	1	3	2	1	1	1	2	2						10	1		3			1			
農業経営研究室	28	1	3	2	1	1	1	2	2						10	1		3			1			
農産部	104	68			1					14						11	10							
水田作研究室	30	29														1								
水稲育種研究室	37	37																						
応用生物工学研究室	14									14														
生産工学研究室	23	2			1											10	10							
園芸畑作物部	128		23	50	24	30							1											
果樹研究室	50			50																				
野菜畑作研究室	38		23		15																			
花き研究室	25					24							1											
南部園芸研究室	15				9	6																		
生産環境部	61	1			1							13	25			1				1	5	7	5	2
環境保全研究室	21											11	2							1	5			2
土壌作物栄養研究室	27	1										2	23			1								
保鮮流通技術研究室	13				1																	7	5	
病害虫部	25													20							5			
病理昆虫研究室	25													20							5			
畜産研究所	48	1					5	18	16		5	3												
家畜育種研究室	12								11			1												
家畜飼養研究室	5						5																	
家畜工学研究室	5										5													
飼料生産研究室	17	1							14			2												
外山畜産研究室	6							4	2															
種山畜産研究室	3							3																
県北農業研究所	85	10	15		14	9						8	2	10	1	4			11		1			
営農技術研究室	33		1		2							7	2	10	1	3			6		1			
産地育成研究室	24				12	9													3					
やませ利用研究室	28	10	14									1				1			2					
総計	479	81	41	52	41	40	6	20	18	14	5	24	28	30	11	17	10	3	11	6	7	7	5	2

(2) 試験研究課題一覧

凡例

番号：年度毎連番、課題番号：小課題番号＋細目課題番号、  
 推進構想分野：当該課題の関連する推進構想分野を略称で記載。複数ある時は主となる分野に を付記。  
 実施区分：継；次年度継続、完；本年度完了、繰上完了；終期を繰上げ本年度完了、廃止；途中で終了  
 担当研究室：主担当に を付記。  
 予算：国庫研究；国庫補助研究、国庫委託；国庫委託事業、民間委託；民間委託事業、  
 令達；他公所からの令達予算研究、県単研究；県単研究予算、県単採種；主要農作物採種管理費

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室(主担当)	予算
1	38-3200	水稲 農業農村	北上川流域地帯における水稲湛水点播直播栽培技術の確立 点播栽培技術の総合実証 実証技術の総合評価と地域営農システムの確立	13～14	継	農業経営 水田作 生産工学	国庫 研究
2	96-1200	畑作物 農業農村 水田農業	不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培 技術 大豆不耕起栽培体系の導入条件と展開方策 水田利用作付体系・機械化栽培定着のための生産組織化 の究明	12～13	完	農業経営 野菜畑作 生産工学	
3	-4100		高品質・超省力栽培体系の現地実証 組立技術の経営経済評価	12～15	継		
4	739-1100	畑作物	寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術の 開発 麦・大豆立毛間播種体系の導入条件と展開方策 麦・大豆立毛間播種栽培の定着要因の解明	13～17	継		
5	128-1110	果樹 農業農村	需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立 食味本位リンゴの省力的生産技術導入による経営基盤強化方 策の解明 食味本位りんごの省力的生産技術導入による経営基盤強 化方策 現行非破壊選果機の活用上の問題点の把握と改善方 策	12～14	継	農業経営 果樹	
6	-1120		食味本位リンゴの生産体制及び流通機構の実態解析 と改善方策	12～14	継	農業経営	
7	154-3200	野菜 農業農村 やませ利用	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 機械化畑輪作体系の実証と評価 経営及び地域に対する経済性の評価	9～13	完	農業経営 産地育成	
8	206	花き 農業農村	カジュアルフラワーの消費動向と流通販売方策	11～13	完	農業経営 花き	県単 研究
9	233-2000	酪農 農業農村	完全自動（ロボット）搾乳機等を応用した超省力管理技術の確立 搾乳ロボット導入による超省力管理システムの経営経済評価	12～13	完	農業経営 家畜飼養	
10	242-1300	肉畜 農業農村	北上山地における公共放牧地の高度利用による黒毛和種肥育素牛 の放牧管理技術の確立 黒毛和種肥育素牛生産における放牧利用の展開方向の解明 黒毛和種肥育素牛の放牧育成システムの経営的評価	13～15	継	農業経営 外山畜産	国庫 研究
11	-1200		遠野地域の公共牧場における総合的放牧利用の展開方向 の解明	11～13	完		
12	256-1200	草地飼料 農業農村	北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・ 供給システムの確立 北上山地における良質粗飼料生産・調製・供給システムの現 地実証 良質粗飼料生産・調製・供給システムの経営経済的評価	10～13	完	農業経営 飼料生産	
13	-1300		北上山地における貯蔵粗飼料生産・調製・供給のための地域 支援システムの構築 採草地を組み込んだ公共草地の高度利用の解明	11～13	完		
14	751-3000	農業農村 情報利用	気象変動下における作物生産シミュレーションモデルの開発 生産及び流通経済環境の変化に対応した農業経営設計システ ムの開発	13～15	継	農業経営 土壌作物栄養 営農技術	
15	420		地域農業計画診断システムの開発に関する研究	9～13	完	農業経営	県単

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ; 主担当)	予算
16	729	農業農村	県南部沿岸地域の小規模農業地域における地域農業再編モデルの策定	13～15	継		研究
17	700-1000		主業型農家の経営発展過程分析による育成支援方策の解明	13～15	継		
18	426		新規就農青年の経営発展と支援方策	11～13	完		
19	428	農業農村情報利用	農産物の市場動向分析	13～17	継		
20	701	農業農村	担い手の販売能力高度化に対応した産地の成立条件の解明	13～15	継		
21	444-1200	生産システム 水稲 農業農村	寒冷地・大区画ほ場でのロングマット水耕育苗技術と移植・栽培技術の開発 寒冷地におけるロングマット水耕育苗技術の導入条件の設定 ロングマット水耕育苗技術導入経営体の明確化	12～14	継	農業経営 生産工学	国庫 研究
22	470-1100	地域活性化 やませ利用	中山間地域活性化戦略の確立に関する研究 地域資源を高度活用した農産物供給システムの確立 地域特産物の生産実態把握と農産物供給システムの担い手への支援方策	11～13	完	農業経営	県単 研究
23	-1200		農業関連活動の有機的結合プロセスの解明	11～13	完		
24	702	地域活性化	中山間地域等直接支払制度の活用方策の解明	13～15	継		
25	483-1200	農業農村 やませ利用	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立 地域農業資源の探索・評価と新商材の需要把握（現地支援研究） 新商材の市場・消費ニーズの把握	12～14	継	農業経営 保鮮流通技術 産地育成	国庫 研究
26	-2100		高付加価値農産物の生産・流通技術の開発（技術開発試験） 商品特性に対応した流通チャネルの探索	12～15	継	農業経営 産地育成 やませ利用	
27	-3300		消費ニーズを踏まえた生産流通システムの実証（体系化実証試験） 開発技術の経営評価と生産・流通システムの策定	13～15	継	農業経営 営農技術 産地育成 やませ利用	
28	703	有機農業 水稲	水稲作における民間農法の経営的特長の把握	13～13	完	農業経営	県単 研究
29	35-1000	水稲	奨励品種決定予備調査(粳、糯) 中・晩生品種	S29～13	完	水田作 やませ利用	県単 採種
30	36-1000		奨励品種決定本調査(粳、糯) 中・晩生品種	S29～13	完		
31	37		奨励品種決定現地調査	S29～13	完		
32	728		大区画水田圃場における圃場畦畔の雑草制御と景観形成技術の確立	13～14	継	水田作 生産工学	県単 研究
33	38-1100	水稲 農業農村	北上川流域地帯における水稲湛水点播直播栽培技術の確立 直播栽培技術導入条件の設定 品種・作期を組み合わせた直播導入可能地域の設定	11～13	完	水田作 農業経営	国庫 研究
34	-2100	水稲 土壌作物	湛水点播直播安定栽培技術の確立 出芽・苗立ちの安定化と初期生育の斉一化技術の確立	11～14	継	水田作 土壌作物栄養	
35	-2200		点播栽培の生育安定化技術の確立	11～14	継		
36	-3100	水稲 農業農村	点播栽培技術の総合実証 点播栽培技術の組み立て実証	11～14	継	水田作 農業経営 生産工学	
37	40-1100	水稲	水稲作用新除草剤の効果の解明 水稲作用除草剤第2次適用性試験 県南適応性	S34～13	完	水田作 やませ利用	民間 委託
38	44-1000		水稲作用新資材の効果の解明 新育苗培土等の実用性確認	1～13	完	水田作	
39	45-1000		水稲栽培における水田雑草の最小限防除技術の開発 移植前作業と単成分除草剤による水田雑草の防除効果	12～15	継		令達
40	-2000		移植後の水管理が水田雑草の発生に及ぼす影響	12～15	継		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
41	704 -1000	水稻 保鮮流通	米の食味改善診断技術の開発 中・晩生水稲品種の食味診断技術開発	13～15	継	水田作 土壌作物栄養 やませ利用	県単 研究
42	58 -1000	水稻	水稻粳有望品種・系統の栽培特性 粳有望新系統「岩南25号」の栽培特性	13～14	継	水田作	
43	-2000		粳有望新系統「岩南60号」の栽培特性	13～14	継		
44	59		水稻優良種子生産のための発芽能力検定法の確立	13～15	継		
45	48 -2000		良質・良食味米生産技術の栽培実証 県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証	S58～13	完	水田作 やませ利用	民間 委託
46	-1100		良質・良食味米生産技術の栽培実証 気象・土壌条件に対応した新品種の高品質安定生産技術の確立 早生・良質・良食味新品種「岩南16号」の栽培	13～14	継		県単 研究
47	60 -1000		水稻有望新系統の早期栽培特性把握試験 粳有望系統「岩南25号」(一関市)	13～14	継	水田作	
48	49 -1000	水稻 情報利用	水稻作況調査と作柄成立要因の解析 中・晩生品種	S34～13	完	水田作 やませ利用 土壌作物栄養	
49	50 -1000		水稻優良品種の気象反応試験 中・晩生品種関係	S34～13	完	水田作 やませ利用	
50	51	水稻 土壌作物	土壌・施肥管理と水稻の生育反応	S34～13	完	水田作 やませ利用 土壌作物栄養	
51	55	水稻 情報利用	登熟診断技術の確立	10～13	完	水田作	
52	57	水稻	水稻糯有望新系統の栽培特性 糯有望新系統「岩南糯19号」の栽培特性	10～13	完		
53	60 -2000		水稻有望新系統の早期栽培特性把握試験 糯有望系統「岩南糯19号」(紫波町)	13～13	完		
54	740 -1000	水稻 草地飼料	寒冷地北部におけるホールクロップサイレージ用イネの栽培実証 省力・低コスト生産技術体系の実証	13～15	継	水田作 飼料生産	国庫 委託
55	-2000		ミニマム防除体系の確立	13～14	継		
56	61	水稻	水稻原々種生産	S29～	継	水田作	県単 採種
57	62		水稻原種生産	S29～	継		
58	444 -2300	生産システム 水稻	寒冷地・大区画ほ場でのロングマット水耕育苗技術と移植・栽培技術の開発 寒冷地におけるロングマット水耕育苗技術の開発 ロングマット苗の移植精度向上と初期栽培管理技術の開発	12～14	継	水田作 生産工学	国庫 研究
59	736	水稻	分子マーカーを用いた岩手県水稻奨励品種の識別技術の確立	13～14	継	水稻育種	令達
60	737		分子マーカーを用いた水稻品種選抜技術の検討	13～17	継	応用生物学	
61	5 -1000		水稻新規需要等対応品種の育成 水稻新規需要等対応品種組み合わせ親の特性調査	2～22	継	水稻育種	
62	18 -1000		水稻品種特性調査 東北地域の水稻奨励品種比較試験	7～22	継		
63	-2000		水稻品種保存用品種・系統の展示及び交配母本の養成	S59～22	継		
64	6		水稻高度耐冷性集積系統の育成	2～22	継		
65	7		水稻高度耐病性集積系統の育成	2～22	継		
66	19 -1000		水稻品種育成交配試験 水稻交配試験	S59～22	継		
67	-2000		水稻初期世代養成試験	S59～22	継		
68	-3000		水稻世代促進試験	S59～22	継		
69	-4000		水稻個体選抜試験	S62～22	継		
70	-5000		水稻単独系統選抜試験	S62～22	継		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ; 主担当)	予算
71	20-1000		稲いもち病抵抗性極強品種・系統の育成 いもち病真性抵抗性遺伝子型の推定	1~22	継		
72	-2000		葉いもち圃場抵抗性検定調査	S48~22	継		
73	-3000		穂いもち圃場抵抗性検定調査	S62~22	継		
74	21-1000		極良食味水稻品種・系統の育成 食味官能調査	S60~22	継		
75	-2000		食味成分調査	2~22	継		
76	-3000		炊飯米外部構造調査	13~22	継		
77	15-1000		水稻生産力検定試験 生産力検定予備試験	S58~22	継		
78	-2000		生産力検定予備試験系統群	S58~22	継		
79	-3000		生産力検定本試験	S58~22	継	水稻育種 やませ利用	
80	-4000		生産力検定本試験系統群	S58~22	継	水稻育種	
81	16-1000		水稻系統適応性検定試験 水稻系統適応性検定試験(国公立育成成分)	S39~22	継	水稻育種 やませ利用	国庫委託
82	-2000		稲民間育成品種評価試験	13~13	完	水稻育種	民間委託 令達
83	22-1000		高度耐冷性水稻品種・系統の育成 高度耐冷性を有する系統の探索	2~22	継		
84	-2000		障害型耐冷性検定調査	S59~22	継		
85	23		不良環境地帯向け水稻品種の育成(現地試験)	S59~22	継		
86	24-1000		育成地間相互交換水稻系統適応性検定試験 中・晩生水稻系統	S52~22	継	水稻育種 やませ利用	
87	25		低温登熟性に優れる水稻品種・系統の育成	2~22	継		
88	26-1000		難穂発芽性水稻品種・系統の育成 穂発芽性検定調査	S62~22	継	水稻育種	
89	27-1000		直播適応性水稻品種・系統の育成 直播関連適性検定法の検討	13~15	継		
90	-2000		直播生産力検定試験	3~22	継		
91	28-1000		超多収水稻品種・系統の育成 育成系統の施肥反応試験	2~22	継		
92	29		醸造用水稻品種・系統の育成	2~22	継		
93	30		醸造用水稻品種・系統の加工適性試験	8~22	継		
94	31		水稻糯品種・系統の育成	2~22	継		
95	32		低アミロース水稻品種・系統の育成	2~22	継		
96	280	作物ハ`イテ` 果樹	りんごの有望品種及び有望台木の再分化技術の開発	12~14	継	応用生物学	県単研究
97	281	作物ハ`イテ` 水稻	耐病性関連遺伝子導入稲の特性評価	9~13	完		
98	282	作物ハ`イテ` 果樹	耐病性関連遺伝子導入りんごの耐病性評価	9~13	完		
99	744-3000	作物ハ`イテ`	水田を活用した持続型作付体系及び優良種苗の確保によるサトイモ産地強化の実証 優良系統の培養苗利用による栽培実証	13~15	継	応用生物学 野菜畑作	
100	284-1000	作物ハ`イテ` 花き	りんどう採種用親系統の維持・増殖技術の確立 えぞりんどうの葉片培養による大量増殖法の確立	9~13	完	応用生物学	
101	-2000		えぞりんどうの茎頂培養による大量増殖法の確立	9~13	完		
102	286		スタ・チス・シヌア・タの低コスト培養システムの確立	10~13	完		
103	287	作物ハ`イテ`	稲の薬培養を利用した育種技術の効率化	9~13	完		
104	288	水稻	DNAマーカー利用による稲優良形質の探索及び選抜法の確立	9~14	継		
105	289	作物ハ`イテ`	ピーマン病原ウイルスの検出・診断技術の利用	10~13	完		
106	290	野菜	なす科作物青枯病菌の検出・診断技術の利用	10~13	完		
107	292	作物ハ`イテ`	りんどうのウィルスフリー化技術の確立	9~13	完		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( : 主担当)	予算
108	293	花き	小ぎくのウィルスフリー化技術の確立	12～16	継		
109	294	作物ハ イク 果樹	りんごのウィルスフリー樹の作出及び検定法の確立	9～13	完		
110	440 -2110	水稲 情報利用 生産システム	大区画ほ場営農に対応した低コスト・省力技術体系の確立 ラジコンヘリ利用による水稲栽培技術の開発 ラジコンヘリ利用による水稲直播栽培技術の確立	10～13	完	生産工学	
111	38 -2300	水稲 生産システム	北上川流域地帯における水稲湛水点播直播栽培技術の確立 湛水点播直播安定栽培技術の確立 点播栽培における効率的作業技術の確立	11～14	継	生産工学 水田作	国庫 研究
112	154 -1110	野菜 やませ利用 農業農村	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 機械化畑輪作体系の成立条件と導入対策 露地野菜の省力機械化技術の適応条件の解明 キャベツ等	9～13	完	生産工学 営農技術 農業経営 産地育成	
113	440 -1000	生産システム 水稲 情報利用	大区画ほ場営農に対応した低コスト・省力技術体系の確立 高度な診断技術・栽培管理知識を集約した「担い手農家技術 支援エキスパートシステム」の開発	9～13	完	生産工学	県単 研究
114	441	生産システム	労働強度・機械作業安全性の解析と改善技術の確立	9～13	完		
115	442	生産システム 水稲	新側条施肥体系の確立	11～13	完	生産工学 土壌作物栄養	民間 委託
116	96 -3110	生産システム 畑作物 水田農業	不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培 技術 大豆の高品質安定生産技術確立 大豆の高品質安定生産技術確立 不耕起播種機の能率・精度の向上	11～14	継	生産工学 野菜畑作	国庫 研究
117	739 -2300	生産システム 畑作物	寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術の 開発 麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発 立毛間播種機の実用性と改良指針の作成	13～15	継	生産工学 営農技術	
118	-3000		麦・大豆立毛間播種栽培の現地実証	13～17	継	生産工学 農業経営 野菜畑作	
119	444 -2100	生産システム 水稲	寒冷地・大区画ほ場でのロングマット水耕育苗技術と移植・栽 培技術の開発 寒冷地におけるロングマット水耕育苗技術の開発 寒冷地水耕育苗における最適環境制御技術の開発	11～14	継	生産工学 水田作 土壌作物栄養 病理昆虫	
120	-2200		ロングマット苗の貯留・運搬・補給技術の開発	11～14	継	生産工学	
121	-2300		ロングマット苗の移植精度向上技術と初期栽培管理技術 の開発	11～14	継	生産工学 水田作 病理昆虫	
122	-3100		大区画圃場におけるロングマット苗移植技術の総合実証 大区画圃場におけるロングマット苗移植技術の組立実証	11～14	継	生産工学	
123	732	農村整備	傾斜地畑の土壌流亡防止工法の確立	13～15	継		令達
124	462		重機の走行がほ場整備後の土壌の均一性に与える影響の解明	11～15	継		
125	463 -1000	農村整備 水稲	ほ場条件に対応した水管理システムの確立 地下かんがい、地下排水方式の確立	9～14 13	繰上 完了		
126	-2000		用排水の自動化と水循環方式による水利用方式の確立	9～13	完		
127	465 -1000		北東北重粘土地帯における暗渠排水技術の確立 簡易で効果的な暗渠排水技術の確立	12～14	継		国庫 研究
128	-2000		新暗渠疎水材の実用化	12～14	継		
129	-3000		現地実証による効果測定	12～14	継		
130	463 -3000		ほ場条件に対応した水管理システムの確立 暗渠排水の最適被覆材の選定	9～14 13	繰上 完了		令達
131	466 -1000		大規模・大区画ほ場における生産管理のシステム化 畦畔被覆資材・方法の確立	9～13	完		
132	466 -2000		農道ターン方式の確立	9～13	完		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ; 主担当)	予算
133	121 -1100	果樹	21世紀のリンゴわい化栽培を担うJM台木の利用技術の開発 JM台木の現地適応性の解明 JM7台木利用樹の現地適応性	11~15	継	果樹	国庫研究
134	-2100		JM台木の簡易・安定・短期生産法の確立 台木の簡易増殖法	11~13	完		
135	-2200		苗木の短期生産法	11~13	完		
136	-3100		優良ポット苗の短期育成技術の確立 JM台木を用いたポット養成苗木の短期生産法	12~15	継		
137	-4100		JM台木と主要品種・県奨励品種との親和性の解明 JM台木と「ふじ」、「きおう」等の親和性	11~15	継		
138	-5110		JM台木利用・栽植様式による低樹高栽培の確立 台木の利用法 地上部台木長の検討	11~15	継		
139	-5120		JM5台木の間港台利用法の検討	11~15	継		
140	-5200		JM7台木の栽植様式の検討	11~15	継		
141	708		山ぶどう結実安定技術の確立	13~17	継		県単研究
142	709		ぶどう短梢栽培用平棚を利用した大粒種の栽培法の検討	13~17	継		
143	123 -1100		西洋なしのわい化栽培による省力・低コスト栽培技術の確立 ラ・フランスの生産安定 ラ・フランスの単為結果性を利用した安定生産技術の検討	11~13	完		
144	124 -1000		果樹園管理の省力機械化栽培法の確立 果樹園用局所施肥機による施肥量の削減と果実品質の向上	11~13	完		民間委託
145	125 -1000		果樹の植調剤 りんご園の除草剤の効果的使用法	1~13	完		
146	-2000		ぶどう園等除草剤の効果的使用法	1~13	完		
147	-4000		りんごの摘花(果)剤の選抜と実用化	1~13	完		
148	-5000		りんごの摘葉剤の選抜	1~13	完		
149	127 -1000		新品種等の安定生産技術の確立 きおうの裂果・落果防止技術の確立	5~13	完		県単研究
150	129 -1000	果樹 情報利用	果樹の生育と果実品質の変動要因の解明 りんごの生育・生態の把握	9~13	完		
151	-2000		ぶどうの生育・生態の把握	9~13	完		
152	-3000		果樹の生育と果実品質の変動要因の解明 西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握	9~13	完		
153	128 -1111	果樹 保鮮流通	需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立 食味本位リンゴの均質化栽培技術の確立 食味本位リンゴの樹体構成法及び光センサー等を利用した均質化栽培法の確立 食味本位リンゴの樹相診断技術の確立 樹勢要因と果実品質の関係解明	12~13	完	果樹 保鮮流通技術	国庫研究
154	-1112	果樹	食味本位リンゴの適正着果量の解明	12~13	完	果樹	
155	-1113		食味本位リンゴの樹相診断法の確立	13~14	継		
156	-1121		良食味・均質化のための樹体構成法 樹体内果実品質の分布把握	12~13	完		
157	-1122		受光条件と果実品質の関係解明	12~14	継		
158	-1123		葉面積指数と果実品質の関係解明	12~14	継		
159	-2111		食味本位リンゴの省力・低コスト・平易化栽培技術の確立 新植調剤の実用化による摘果作業の削減技術の開発 ‘ふじ’‘さんさ’‘ジョナゴールド’などへの新摘花・摘果作業の削減技術の確立 新摘花剤の効果確認	12~14	継		
160	-2112		‘さんさ’‘ふじ’などへの品種適応性の検討	12~14	継		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
161	-2113		需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立 食味本位リンゴの省力・低コスト・平易化栽培技術の確立 新植調剤の実用化による摘果作業の削減技術の開発 ‘ふじ’ ‘さんさ’ ‘ジョナゴールド’ などへの新 摘花・摘果作業の削減技術の確立 摘果剤の効果安定法	12～14	継		
162	-2114		体系処理法の開発と省力効果の確認	13～14	継		
163	-2211		摘葉剤の実用性及び効果安定法の検討	12～16	継		
164	-2212		摘葉剤処理が樹体生理に及ぼす影響	12～16	継		
167	-2213		着色評価のための非破壊センシング利用技術の開発	12～16	継		
165	-2220		新摘葉剤の実用化及び着色系統の利用等による着色管理 の大幅削減技術の開発 着色系統利用及び着色管理の省力化技術の確立	12～16	継		
166	-1131	果樹 情報利用	食味本位リンゴの均質化栽培技術の確立 食味本位リンゴの樹体構成法及び光センサー等を利用し た均質化栽培法の確立 各種資材利用による内部品質向上・均質化技術の確 立 光センサーによる内部品質評価法の検討	12～16	継		
168	-1132	果樹	各種資材利用による内部品質向上・均質化技術 の検討	12～16	継		
169	131 -1100		果樹類の低樹高品種の育成等による省力・軽作業栽培技術の開発 カラムナータイプ等に適合した省力技術体系の開発 摘花・摘果の省力技術の開発	9～16	継		国庫 委託
170	-1200		摘葉管理の省力技術の開発	9～16	継		
171	-1300		密植立木仕立てでの省力的せん定技術の開発	9～16	継		
172	-2100		果樹類の低樹高品種の育成等による省力・軽作業栽培技術の開発 りんごスパタイプ等特殊形質樹利用による低コスト・超省 力・高品質生産技術の解明 スパタイプ等特殊形質を有する品種の栽培特性の把握	9～13	完		県単 研究
173	132 -1000	果樹 作物バ イク	先端技術応用による優良品種の開発育成 良品質・高生産を目的としたウイルスフリー樹の作出	S57～13	完	果樹 応用生物学	令達
174	133 -1000	果樹	ジョナゴールド、ふじ等に優る中・晩生種の開発 国育成系統適応性（盛岡58～62号）	1～13	完	果樹	
175	-2000		国内外導入品種の選抜	1～13	完		
176	-3000		いわて特産中～晩生種の交配育成	1～13	完		
177	134 -1100		キャンベル、紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜 寒冷地向きぶどうの系統適応性試験 第9回系統適応性検定試験	4～13	完		国庫 委託
178	-1200		第10回系統適応性検定試験	4～13	完		
179	-2000		国内外育成の寒冷地向き品種の選抜（生食用、醸造、兼用種 等品種の選抜）	1～13	完		令達
180	-3000		耐寒性中・大粒種ぶどうの交配育成	1～13	完		
181	135 -1000		ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発 国内外導入品種の選抜	1～13	完		
182	136	果樹 果樹	おうとう、もも等の優良品種の選抜	1～13	完		
183	80	畑作物	麦類の奨励品種決定調査	S29～13	完	野菜畑作	県単 採種
184	81 -1000		大豆の奨励品種決定調査 基本調査	S29～13	完	やませ利用	
185	-2000		現地調査	S29～13	完		
186	83 -1000		新形質品種の特性を活かした高位安定栽培技術の確立 低アミロース小麦系統「東北206号」の高品質安定栽培技術	11～13	完	野菜畑作	国庫 委託
187	84	畑作物 水田農業	ハトムギ優良品種の選定	11～14	継		令達



番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ; 主担当)	予算	
188	85	畑作物	麦類耐寒雪性特性検定試験	S29～13	完		国庫委託	
189	86		大豆立枯性病害抵抗性検定試験	S62～13	完			
190	87		ばれいしょウイルス病抵抗性検定試験	S28～13	完			
191	88		ばれいしょ系統適応性検定試験	S47～13	完			
192	89		あずき系統適応性検定試験	S40～13	完			
193	91		主産国に負けない高い製パン・製めん特性を持った小麦品種の選定と評価	7～13	完			令達
194	92		大規模機械化栽培に適したダイズ新品種の選定及び栽培実証	7～13	完			
195	96 -1400	畑作物 水田農業	不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術 大豆不耕起栽培体系の導入条件と展開方策 不耕起土壌の理化学性等の把握	11～15	継	野菜畑作 生産工学	国庫 研究	
196	-2200		不耕起播種による大豆の高品質・安定生産技術 不耕起、無中耕、無培土栽培に対応した土壌管理技術の確立	12～15	継			
197	-2300		不耕起、無中耕、無培土栽培に適応した品種、栽培法の検討	11～15	継			野菜畑作
198	97 -2000	畑作物	畑作物の革新的作型の確立 小麦の冬期播種栽培技術の確立	13～15	継		県単 研究	
199	739 -2100	畑作物 生産システム 畑作物	寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術の開発 麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発 立毛間播種に適応した麦・大豆栽培技術の確立	13～17	継	野菜畑作 生産工学 農業経営 土壌作物栄養 営農技術 やませ利用	国庫 研究	
200	-2200		小麦・大豆立毛間播種に対応した効率的雑草防除技術の確立	13～17	継			
201	100 -1000	畑作物 情報利用	畑作物の生育相及び気象反応の解明 大豆の生育相と気象反応の解明	S49～13	完	野菜畑作 やませ利用	県単 研究	
202	-2000		麦類の生育相と気象反応の解明	S49～13	完			
203	727	畑作物	水田大豆の加工適性向上のための高品質安定化技術	13～15	継	野菜畑作	国庫 委託	
204	96 -2400	畑作物 水田農業	不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術 不耕起播種による大豆の高品質・安定生産技術 大豆作を中心とした水田利用作付体系の実証<地域に適合した転換畑の持続的作付け体系の組立実証	11～15	継	野菜畑作 農業経営	国庫 研究	
205	105		畑作物原々種および原種生産	S29～13	完			野菜畑作
206	150 -1000	野菜	園芸作物におけるセル成型苗等の機械化生産技術の開発 新接ぎ木法に対応した養生・順化技術の確立	9～13	完			
207	151 -1110		園芸作物の経営基盤を強固にする省力・低コスト生産技術の開発 セル成型苗等省力・低コスト生産技術の開発 雨よけトマトにおけるセル成型苗直接定植技術の確立 重複2作栽培による長期どりの検討	9～13	完			
208	-1210		ハウスピーマンにおけるセル成型苗直接定植技術の確立 徒長防止による初期収量確保の検討	9～13	完			
209	156 -1000		大規模野菜生産技術の確立 夏秋キュウリの省力型品種の選抜	9～13	完			
210	-2000		雨よけトマトの省力型品種の選抜	9～13	完			
211	-3000		ピーマンの省力型品種の選抜	9～13	完			
212	738 -1000		雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大 省力技術の実証	13～15	継			野菜畑作 産地育成
213	-2000		安定多収技術の実証	13～15	継			
214	157 -3000	野菜 土壌作物 保鮮流通	園芸作物における養液土耕等の施設に対応した生産技術 地床利用によるトマトの点滴灌水同時施肥栽培技術の開発実証	12～14	継	野菜畑作 農業経営 土壌作物栄養 保鮮流通技術 南部園芸		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ; 主担当)	予算
215	159	野菜 土壌作物	新肥料の肥効試験	9～13	完	野菜畑作	民間委託
216	163 -1000	野菜	ニューなばな「はるの輝」の前進作型の開発 ワックスレス中生優良系統の選抜	S58～13	完		令達
217	744 -1000		水田を活用した持続型作付体系及び優良種苗の確保によるサトイモ産地強化の実証 優良種苗の現地選抜	13～15	継	野菜畑作 応用生物学	県単研究
218	165 -1000	野菜 作物ﾊﾞｲｸ	野菜の優良栄養繁殖系品種の育成 サトイモの優良系統の選抜	10～15	継	野菜畑作	令達
219	744 -2000	野菜	水田を活用した持続型作付体系及び優良種苗の確保によるサトイモ産地強化の実証 田畑輪換を中心とした連作障害対策の実証	13～15	継	野菜畑作 病理昆虫	県単研究
220	174		えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖	8～13	完	野菜畑作	令達
221	191	花き 作物ﾊﾞｲｸ 花き	りんどうの品種育成	S49～15	継	花き 応用生物学	
222	192	花き 作物ﾊﾞｲｸ	スターチス類の品種育成	11～15	継		
223	193		スターチス・シヌアータの優良培養系統の特性評価	9～13	完	花き 応用生物学 南部園芸	県単研究
224	194	花き	ニュータイプ小ぎくの品種育成	1～15	継	花き	令達
225	195	花き 作物ﾊﾞｲｸ	ゆりの品種育成	5～15	継	花き 応用生物学	
226	196 -1100	花き	寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立 枝物花木の寒冷地向け適品種選定及び栽培技術の確立 品目選定と栽培特性	12～16	継	花き	国庫研究
227	-1200		効率的増殖法及び育苗技術の確立	12～16	継		
228	-1300		栽植方式及び早期株養成技術の解明	12～16	継		
229	-1400		整枝及び仕立て法の開発	13～16	継		
230	-1500		休眠特性の解明と促成栽培技術の確立	13～16	継		
231	197 -1000		寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術 宿根草等の鉢物化技術の確立	10～14	継		県単研究
232	202 -2000		農薬、新資材等の実用化試験 F K H -14水和剤、プロザミド水和剤の小ぎく栽培床適応性	12～13	完		民間委託
233	204		沖縄系小ぎくの長期安定出荷技術	11～13	完		令達
234	205		沖縄養成洋ラン鉢物の年内出荷体系の確立	11～13	完		
235	207		カジュアルフラワーの栽培安定化技術の確立	12～14 13	廃止		県単研究
236	208 -1000		りんどうの高品質安定生産技術の開発 りんどうの栄養系品種の高品質安定生産技術及び不時出荷技術の開発	6～13	完		
237	-1000		主要切花品目の開花調節機能の解明 りんどうの生育、開花制御要因の解明	9～13	完		
238	-2000		りんどうの作況調査	S58～13	完		
239	-3000		トルコギキョウの生育、開花制御要因の解明	9～13	完		
240	211		りんどうの高品質促成栽培技術の確立	10～14	継		
241	212 -1000		きく類の長期出荷技術の開発 小ぎく、スプレーギクの作期拡大技術の開発	9～13	完		
242	213	花き	りんどうのセル成型育苗の管理指標の策定	7～13	完		
243	746		沿岸中山間地域における花き周年生産モデルの確立	13～15	継	花き 病理昆虫	
244	214		花き原種苗の維持・増殖	S49～17	継	花き 応用生物学	令達
245	344 -3000	土壌作物 花き	新肥料の実用化試験 スプレーギクに対するノンストレス肥料の肥効確認	12～14	継	花き	民間委託

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
246	150 -2100	野菜	園芸作物におけるセル成型苗等の機械化生産技術の開発 低温処理等による付加価値型苗生産技術の開発 短日処理によるいちご促成作型の開発	9～13	完	南部園芸	県単研究
247	747 -1000		水田地帯における園芸生産の高度・安定化 いちご栽培における省力技術の導入による高度生産化	13～15	継		
248	711		いちご低温カット栽培における高設栽培技術の確立	13～15	継		
249	156 -4000		大規模野菜生産技術の確立 夏秋きゅうり急性萎凋症状の耕種の発生要因の解明	12～15	継	南部園芸 野菜畑作	
250	712		トマト溶液栽培による周年栽培技術の確立実証	13～15	継	南部園芸	
251	748 -1000		東磐井地方における園芸省力安定生産モデル経営の実証 トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証・確立	13～15	継		
252	157 -1000		園芸作物における養液土耕等の施設に対応した生産技術 いちごのベンチアップ栽培の確立	11～15	継		
253	-2000		トマトの少量土壌培地耕栽培技術の確立	11～15	継		
254	160 -1000	野菜 土壌作物	新肥料の肥効検定他 果菜類に対する肥効確認	9～13	完		民間委託
255	193	花き 作物ハイク	スターチス・シヌアータの優良培養系統の特性評価	9～13	完	南部園芸 応用生物学	県単研究
256	197 -2000	花き	寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術 秋出荷花壇苗の生産体系の確立	10～14	継	南部園芸	
257	201 -2000		地帯別気象特性を生かした花き生産の長期化技術 トルコギキョウの秋冬出し高品質生産技術の確立	9～13	完		
258	710		太陽光発電を利用した栽培技術の確立	13～17	継		
259	160 -2000	花き 土壌作物	新肥料の肥効検定他 花きに対する肥効確認	9～13	完		民間委託
260	203 -1000	花き	施設の高度利用技術による花き周年生産技術 ラクスパーク等の越冬、抑制作型における良品生産技術の確立	9～13	完		県単研究
261	310 -1000	環境保全	施肥窒素溶脱抑制技術の確立 ライシメーター試験	3～14	継	環境保全	令達
262	311		農薬残留対策調査(作物残留)	S46～13	完		国庫委託
263	312		農薬残留安全追跡調査	10～14	継		国庫研究
264	313 -1000		農薬安全使用等啓発事業 防除農薬散布層の安全性確認調査	12～14	継		
265	314		土壌汚染防止対策技術の確立	S62～13	完		令達
266	749		農薬残留対策調査(水系残留)	13～13	完		国庫委託
267	315 -1100	環境保全 水稻	農薬水質影響調査 水質影響低減技術の開発 いもち病防除剤の施用法と水系での残留	10～13	完		国庫研究
268	-1200	環境保全	種子消毒廃液処理対策技術の確立	10～14	継		
269	750 -1000	環境保全 病害虫	農薬水質影響調査 育苗箱施薬による水田生態系への影響	13～15	継		
270	316 -1000	環境保全	環境にやさしいマルチ資材等利用技術 生分解性マルチフィルムの分解特性及び作物への影響調査	11～13	完	環境保全 営農技術	県単研究
271	327		寒冷地におけるケナフの栽培特性の解明	12～13	完	環境保全 営農技術 やませ利用	
272	325	土壌作物	水田地力富化の実態と適正施肥量指針策定	10～14	継	環境保全	令達
273	328 -1000		連作障害発生要因の解明 作付け体系及び土壌管理と土壌生態系の関係の解明	9～13	完	環境保全 土壌作物栄養	県単研究
274	504 -2000	生物機能 野菜 病害虫	天敵による施設果菜類の多犯性害虫防除技術の確立 キュウリにおける天敵を利用したアブラムシ類の総合防除	12～13	完	環境保全	県単研究
275	714	有機農業 野菜	キャベツにおける無農薬・無化学肥料栽培技術	13～15	継		令達

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( : 主担当)	予算
276	521	有機農業 野菜 病害虫	電解機能水による野菜の病害に対する抑制効果の実証	12～14	継		国庫 委託
277	522	有機農業	有機農産物の生産条件の解明	12～15	継		県単 研究
278	523 -2100	有機農業 水稲	水稲における環境保全型農業の総合組立 水稲の減農薬栽培技術の確立 育苗期における減農薬体系の組立	13～15	継		国庫 研究
279	-2200		本田における減農薬栽培の組立	13～15	継		
280	560 -1000	情報利用	農業気象観測とメッシュ気象図の活用方策の確立 農業気象観測と気象情報データベースの作成・管理	9～13	完		県単 研究
281	-2000		アメダスによる地域別気象特性評価	9～13	完		
282	38 -4000	水稲 土壌作物	北上川流域地帯における水稲湛水点播直播栽培技術の確立 湛水点播直播栽培の施肥管理技術	11～15	継	土壌作物栄 養 水田作	国庫 研究
283	444 -2110	生産システム 水稲	寒冷地・大区画ほ場でのロングマット水耕育苗技術と移植・栽培技術の開発 寒冷地におけるロングマット水耕育苗技術の開発 寒冷地水耕育苗における最適環境制御技術の開発 養分供給方法	11～14	継	土壌作物栄 養 生産工学	
284	320 -1100	環境保全 水稲 土壌作物	環境保全型有機質資源施用基準設定調査 有機物連用試験 水稲の有機物施用基準設定調査	10～14	継	土壌作物栄 養	令達
285	326 -1000	有機農業 環境保全 土壌作物	合理的施肥のための新肥料の開発 発酵鶏糞配合肥料の肥効確認	11～13	完		民間 委託
286	340 -1000	土壌作物 水稲	農作物の要素欠乏及び過剰対策の確立 要素反応と施肥改善(施肥反応と気象)	S38～14	継	土壌作物栄 養 営農技術	県単 研究
287	-2100	土壌作物 花き	微量要素欠乏対策 りんどうの栄養・吸収モデルの作成	S54～14	継	土壌作物栄 養	
288	341 -1000	土壌作物 果樹	りんごの生育予測、栄養診断技術の確立 りんごわい性樹の栄養診断法	9～14	継		令達
289	342 -1000	土壌作物 花き	野菜、花きの生育予測、栄養診断技術の確立 野菜・花き・畑作物の栄養診断手法の確立	11～15	継		県単 研究
290	343 -1000	土壌作物 水稲	水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立 水稲栄養の気象・土壌反応(作況)	S47～13	完	土壌作物栄 養 水田作	
291	157 -4000	土壌作物 野菜	園芸作物の養液土耕施設等に対応した生産技術 点滴かん水による養・水分供給技術の確立	12～14	継	土壌作物栄 養 野菜畑作	
292	345	土壌作物 花き	新肥料の実用化	13～15	継	土壌作物栄 養	民間 委託
293	347 -1000	土壌作物 野菜	肥効調節型肥料の導入技術の確立 野菜類の全量育苗時施肥技術の確立	13～14	継		国庫 研究
294	348 -2100	土壌作物 花き	露地野菜・花き等の土壌管理技術の確立 りんどうの土壌管理指針策定 りんどう生産環境実態調査	10～14	継		
295	-2200		りんどう土壌管理指針策定	10～14	継		
296	349 -1000	土壌作物 果樹	果樹桑等の永年作物の土壌管理技術 りんご園の土壌管理有機物施用指針策定	10～14	継		令達
297	350 -1000	土壌作物 野菜	施設野菜栽培土壌の塩類集積予防対策と土壌管理技術の確立 施設栽培における有機物施用基準の策定	5～14	継		
298	351 -2000	土壌作物 環境保全	不良土壌基盤の簡易改良技術の開発 下層土改良による畑土壌の生産力の向上	9～14 13	廃止		
299	324 -1100		良質堆厩肥の有効利用技術の確立 畜産由来資源等の特性解明と有効利用技術の確立 家畜ふん堆肥の品質評価基準の策定	9～14 13	繰上 完了	土壌作物栄 養 飼料生産	

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( : 主担当)	予算
300	-1200		家畜ふん堆肥の成分特性	9~14 13	繰上 完了		
301	-1300		家畜ふん堆肥のデータベース作成	9~14	継		
302	319		家畜糞尿施用による水質汚染防止技術の確立	9~13	完	土壌作物栄養	
303	353	土壌作物	土壌中可給態窒素の簡易評価法の確立	9~13	完		県単 研究
304	355 -1000		土壌蓄積養分の有効利用法 土壌中可給態窒素・交換性カリ含量と作物生育との関係解明	9~13	完		
305	357		畑土壌における土壌中可給態窒素含量と作物生育との関係解明	9~13	完		
306	751 -1000	土壌作物 情報利用	気象変動下における作物生産シミュレーションモデルの開発 作物生育適地評価システム開発	13~15	継	土壌作物栄養 農業経営 営農技術	国庫 委託
307	320 -2000	土壌作物 環境保全	環境保全型有機質資源施用基準設定調査 土壌機能実態モニタリング調査	10~14	継	土壌作物栄養	国庫 研究
308	-1200		有機物連用試験 畑地の有機物施用基準設定調査	10~14	継		令達
309	157 -5000	野菜 保鮮流通	園芸作物における養液土耕等の施設に対応した生産技術 養液土耕栽培での高品質生産条件の解明	11~15	継	保鮮流通技術 野菜畑作	県単 研究
310	530 -1000	保鮮流通	各種農産物の品質評価指標の解明 果菜類の簡易品質評価法	11~13	完	保鮮流通技術	
311	-2000	保鮮流通 野菜	寒締め菜っぱの簡易品質評価法	13~15	継		
312	531 -1000	保鮮流通 野菜 土壌作物	農産物の各種栄養成分含量と土壌環境条件との関係の解明 ほうれんそう内部品質向上のための有機物施用等土壌管理技術の確立	10~14	継	保鮮流通技術 土壌作物栄養	国庫 研究
313	745	保鮮流通 野菜	枝豆新品種の鮮度保持技術の確立	13~15	継	保鮮流通技術	令達
314	128 -3100	保鮮流通 果樹	需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立 食味本位リンゴの鮮度保持・流通技術の確立 食味本位リンゴの冷温高湿貯蔵技術の確立	12~16	継	保鮮流通技術 果樹	国庫 研究
315	196 -2100	保鮮流通 花き	寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立 切り枝の品質保持技術の確立 鮮度保持剤等の利用による品質保持技術の確立	13~16	継	保鮮流通技術 花き	
316	536	保鮮流通 野菜 花き	真空予冷施設等を高度に活用した高鮮度流通技術の開発	11~13	完	保鮮流通技術	県単 研究
317	483 -4000	農産物加工 畑作物	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立 雑穀の加工適性評価	12~14	継	保鮮流通技術 やませ利用	国庫 研究
318	544 -2000		地域特産物を利用した加工食品の開発 大豆加工菓子類等の製造技術開発	13~13	完	保鮮流通技術	令達
319	483 -5000		地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立 雑穀の粒形を活かした加工品の開発	12~15	継	保鮮流通技術 やませ利用	国庫 研究
320	546 -1000	農産物加工	農産物加工品の品質評価法の確立 地域推奨品流通適正化調査分析	11~14	継	保鮮流通技術	令達
321	548		加工工房指導業務	9~14	継		県単 公園
322	370	病害虫 果樹	りんごのカメムシ類の発生生態と防除法	9~13	完	病理昆虫	国庫 研究
323	371 -2000	病害虫 花き	花き類の新奇病害虫の発生生態把握及び防除技術の開発 りんどうのチビクロキノコバエの防除技術	9~13	完		県単 研究
324	372	病害虫	新奇侵入病害虫の診断法と発生生態の解明	9~17	継		国庫 研究
325	373	病害虫 水稻	斑点米カメムシの発生生態解明と防除法の確立	12~14	継		
326	374	病害虫 野菜	ねぎ病害虫の発生生態	9~13	完		県単 研究

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
327	731		なす科野菜における青枯病総合防除技術の確立	13～15	継	病理昆虫 野菜畑作	国庫研究
328	733	病害虫 果樹	リンゴ根頭がんしゅ病の発生生態と診断法	13～14	継	病理昆虫 果樹	県単研究
329	734	病害虫 花き	キク矮化ウイルスの遺伝子診断法の確立	13～14	継	病理昆虫	
330	382	病害虫 水稲	イネもみ枯細菌病菌	12～14	継		国庫研究
331	383	病害虫	りんごのハダニ類	9～13	完		
332	735	果樹	リンゴ炭そ病の発生予察技術の開発	13～15	継		
333	389 -1000	病害虫 花き 情報利用	野菜花き害虫の発生・防除時期予測システムの開発と実証 りんどう病害虫防除体系の確立と実証	10～14	継		
334	388	病害虫 水稲 情報利用	イネいもち病の省力的予察法の確立及び広域の実証	12～15	継		
335	392	病害虫 畑作物	あずきウイルス病抵抗性検定試験	S53～17	継		国庫委託
336	393	病害虫 野菜	トウモロコシすす紋病抵抗性検定試験	S33～13	完		
337	394	病害虫 草地飼料	ソルガムすす紋病抵抗性検定試験	S37～13	完		
338	402	病害虫	新農薬の効果検定と防除基準作成	S49～17	継		民間委託
339	715	病害虫 水稲	水稲初期害虫の隔年防除技術の確立	13～15	継	病理昆虫 営農技術	国庫研究
340	730	病害虫 野菜	きゅうりにおける総合的病害防除技術の確立	13～15	継	病理昆虫	
341	741 -2000	病害虫 果樹	複合交信攪乱剤利用りんご園における散布回数削減病害虫防除体系の確立と実証 散布回数削減病害虫防除体系の実証	13～15	継		県単研究
342	742 -2000	生物機能	有用拮抗微生物の探索と評価 昆虫病原ウイルスの利用技術	13～15	継		
343	415 -2000		土着天敵群の実態解明とその利用技術 ピーマン害虫に対する総合防除技術の確立	12～14	継		
344	492 -2000		需要動向を見極めた繭・糸・桑の生産技術開発 細織度三眠蚕生産技術の現地実証	13～14 13	繰上 完了		
345	499		天蚕の優良系統育成	1～17	継		令達
346	502		人工飼育昆虫の利用技術	12～14	継		県単研究
347	236	肉畜	日本短角種産肉能力検定(直接法)	S45～17	継	家畜育種	令達
348	237		日本短角種産肉能力検定(間接法)	S48～17	継		
349	240	肉畜 情報利用	血統情報及び超音波利用による種畜評価技術の確立	9～13	完		県単研究
350	241	肉畜 家畜ハイク	分割胚由来一卵性双子を用いた優良種畜作出システムの確立	9～13	完	家畜育種 家畜工学 外山畜産	
351	242 -2400	肉畜	北上山地における公共放牧地の高度利用による黒毛和種肥育素牛の放牧管理技術の確立 集約放牧を取り入れた黒毛和種肥育素牛の発育向上技術の開発 放牧育成肥育素牛の肥育特性の解明	12～15	継	家畜育種 農業経営	国庫研究
352	246		「いわて短角牛」適正出荷のための肥育技術の確立	12～14	継	家畜育種	県単研究
353	247	肉畜 情報利用	黒毛和種肥育素牛の早期能力判定技術の開発	8～13	完	家畜育種 種山畜産	研究
354	248	肉畜	ビタミンA制限による肥育技術の確立	10～15	継	家畜育種	令達
355	249		高能力、高品質、斉一性の高いランドレース種の系統造成	5～13	完		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
356	251		優良鶏性能調査	2~17	継		
357	720		岩手独自の交雑種鶏を活用した組み合わせ検定	13~15	継		県単研究
358	723	環境保全	戻し堆肥の敷料利用システムの確立	13~14	継	家畜育種 飼料生産 家畜飼養	
359	230	酪農	高泌乳・高蛋白牛飼養管理技術の確立	10~16	継	家畜飼養 家畜工学	
360	721		集約放牧を組み入れた高能力牛の育成期飼養管理技術の確立	13~17	継	家畜飼養	
361	232		時間制限集約放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立	10~14	継		
362	233 -1100	酪農 情報利用	完全自動(ロボット)搾乳機等を応用した超省力管理技術の確立 完全自動(ロボット)搾乳機等を応用した超省力管理技術の確立 搾乳ロボット等を応用した超省力管理技術の確立	9~13	完		
363	722	酪農	ロボット搾乳とパーラー搾乳が乳腺細胞に及ぼす影響と乳房炎発生との関係	13~15	継		
364	300	家畜ハイク	受精卵移植技術実用化確立試験	9~13	完	家畜工学	
365	301	肉畜	過剰排卵処理法と経膈採卵の組み合わせによる胚生産の検討	11~13	完	家畜工学 種山畜産	令達
366	302	家畜ハイク 酪農	雌雄判別技術を利用した乳用牛群改良技術の確立	11~15	継	家畜工学 家畜飼養 種山畜産	県単研究
367	303	家畜ハイク 肉畜	核移植技術による優良種畜の大量生産技術の開発	10~15	継	家畜工学 外山畜産 種山畜産 家畜飼養	国庫研究
368	304		肉用牛における経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析	7~18	継	家畜工学 家畜育種 種山畜産	令達
369	740 -3000	水稻 草地飼料	寒冷地北部におけるホーククロップ用イネの栽培実証 良質イネホーククロップサイレージ調整技術の確立	13~15	継	飼料生産 水田作	国庫委託
370	253	草地飼料	とうもろこし市販品種の特性比較試験	S54~17	継	飼料生産	令達
371	254		とうもろこし系統適応性検定試験	S55~17	継		国庫委託
372	725		ソルガム市販品種の特性比較	13~15	継		令達
373	255 -1000		採草用牧草の品種選定試験 オーチャードグラス	11~13	完		
374	-2000		チモシー	11~13	完	飼料生産 外山畜産	
375	726		採草用牧草の播種基準の策定	13~15	継	飼料生産 水田作	県単研究
376	256 -1400		北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立 北上山地における良質粗飼料生産・調製・供給システムの現地実証 開発技術導入による良質粗飼料生産・調製・供給システムの現地実証	10~13	完	飼料生産 農業経営	国庫研究
377	-2100		採草地の機能強化のための良質粗飼料生産技術の開発 公共草地における低位利用草地の簡易牧草種子追播機による草生改良技術の確立	10~13	完	飼料生産	
378	-2200		新品種導入等による標高別草種・品種の新組み合わせ選定(中標高地)	9~13	完	飼料生産 外山畜産	
379	743		ソルガムラップサイレージ調製技術	13~15	継	飼料生産	令達
380	257		糞尿施用とうもろこし畑の簡易診断技術の確立	10~14	継		県単研究
381	259		牧草の気象感応試験	S41~13	完		県単研究
382	724		被覆植物を活用した飼料畑の雑草抑制技術の確立	13~15	継		
383	263		粗飼料の硝酸態窒素簡易測定法の確立	12~13	完		

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
384	318	環境保全	ロックウールの脱臭装置の高機能化とドレインの環境保全的循環技術	12～16	継		国庫委託
385	323		県内における各種堆肥化システムの稼働実績と適応性の解明	12～13	完		県単研究
386	242 -2100	肉畜 草地飼料	北上山地における公共放牧地の高度利用による黒毛和種肥育素牛の放牧管理技術の確立 集約放牧を取り入れた黒毛和種肥育素牛の発育向上技術の開発 草種構成と緩効性肥料の組み合わせによる草地生産平準化技術	11～15	継	外山畜産	国庫研究
387	-2200	肉畜	適正輪換放牧方式による発育向上技術	11～15	継		
388	-2300		放牧草の栄養特性に対応した補助飼料給与技術	11～15	継		
389	243	肉畜 家畜バィテク	胚移植技術を取り入れた効率的な繁殖経営の実証	9～13	完	外山畜産 家畜工学 農業経営	県単研究
390	256 -2300	草地飼料	北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立 採草地の機能強化のための良質粗飼料生産技術の開発 新品種導入等による標高別草種・品種の新組み合わせ選定(高標高地)	9～13	完	外山畜産 飼料生産	国庫研究
391	262		広葉樹林帯を活用した肉用牛放牧における水土保全機能の解明	11～15	継	外山畜産	県単研究
392	234	肉畜	黒毛和種産肉能力検定(直接法)	S62～17	継	種山畜産	令達
393	235		黒毛和種産肉能力検定(間接法)	1～17	継		
394	238		県有種雄牛の能力調査	9～13	完		県単研究
395	751 -2000	畑作物	気象変動下における作物生産シミュレーションモデルの開発 土壌水分予測に基づく効率的かん水技術の開発	13～15	継	営農技術 産地育成	国庫委託
396	154 -4000	野菜 土壌作物	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 緑肥導入技術の環境の評価	13～13	完	営農技術 病理昆虫 産地育成	
397	-2200	野菜 やませ利用 土壌作物	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 省力機械化体系に適した栽培技術開発 機械化に対応した施肥技術の改良	10～13	完	営農技術 土壌作物栄養	国庫研究
398	316 -2000	環境保全 野菜	環境にやさしいマルチ資材等利用技術 環境にやさしいマルチ資材等利用技術	11～13	完	営農技術	県単研究
399	320 -1100	環境保全 水稲 土壌作物	環境保全型有機質資源施用基準設定調査 有機物連用試験 水稲の有機物施用基準設定調査	10～14	継		令達
400	-1200	環境保全 土壌作物	畑地の有機物施用基準設定調査	10～14	継		
401	321 -1000	環境保全 水稲	有機質資材等の施用管理技術の確立 有機質資材の水田での窒素発現特性把握	9～13	完	営農技術 土壌作物栄養	
402	-2000	土壌作物	有機質資材中窒素の水稲による利用率把握	9～13	完		
403	-3000		有機質資材の水田施用と水質	9～13	完		
404	-4000		有機質資材の環境保全型施用技術総合実証	9～13	完		県単研究
405	343 -2300	土壌作物 水稲	水稲の生育予測、栄養診断に基づく対応技術の確立 水稲作物栄養モデルの作成 岩南16号の生育診断指標	9～14	継	営農技術 やませ利用	
406	352 -1000	土壌作物	開発農地の土壌管理技術の確立 新規造成畑の早期熟畑化実証(場内)	9～13	完	営農技術 土壌作物栄養	
407	716 -1000	病害虫 野菜	中山間地域特産物及び花き類の新奇病害虫の生態把握及び防除技術の開発 レタスにおけるナモグリバエの発生生態と防除法の確立	13～15	継	営農技術 病理昆虫	
408	752	病害虫	害虫発生予察支援システムの開発	13～17	継		



番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
409	154 -5000	病害虫 病害虫 野菜	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 土地利用型輪作体系における生産性向上制限要因の解明	9～13	完	営農技術 病理昆虫 産地育成	国庫 研究
410	398 -1000	病害虫 野菜	東北北部中山間畑作地帯におけるキャベツの環境保全型栽培技術の確立 キャベツ根こぶ病菌密度の推移と発病度の実態解析	10～14	継	営農技術	
411	-2000		土壌評価に基づく対抗植物を利用したキャベツ根こぶ病発病抑制効果の評価	10～14	継		
412	-3000		キャベツのコナガ寄生蜂導入条件の策定	10～14	継		
413	-4000		検定植物を用いた根こぶ病の簡易菌密度推定法の確立	10～14	継		
414	-5000		C Rダイコンを組み込んだ転作体系による減農薬栽培技術の実証	10～14	継		
415	-6000		エンバクを組み込んだ輪作体系による減農薬栽培技術の実証	10～14	継		
416	402	病害虫	新農薬の効果検定と防除基準作成	S49～17	継		民間 委託
417	753	農業農村 やませ利用	大規模普通畑作経営体の地域農業に及ぼす効果	13～15	継		県単 研究
418	706	生産システム 水稻	県北部を対象とした水稻低コスト生産システムの開発	13～15	継	営農技術 やませ利用 水田作 生産工学 農業経営	
419	563 -1100	生産システム 野菜	野菜・花き等機械化技術の開発 作業機械・新資材の利用技術の確立 ほうれんそう収穫機械の開発改良	10～14	継	営農技術	令達
420	739 -2200	生産システム 畑作物	寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術の開発 麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発 小麦・大豆立毛間播種に対応した効率的雑草防除技術	13～17	継	営農技術 やませ利用 生産工学 野菜畑作	国庫 研究
421	154 -1120	やませ利 用 野菜 農業農村	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 機械化畑輪作体系の成立条件と導入対策 露地野菜の省力機械化技術の適応条件の解明 ダイコン等	9～13	完	営農技術 生産工学	
422	482	やませ利用	畑地かんがい地帯における野菜・花き等を組み入れた高収益モデル実証	13～15	継	営農技術	県単 研究
423	483 -2514	やませ利 用 畑作物 病害虫	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立 高付加価値農産物の生産・流通技術の開発(技術開発試験) 雑穀類の高付加価値化技術 ヒエ・アワの無農薬機械化栽培技術 アワを中心とした雑穀類の害虫の発生生態の解明と防除対策	11～15	継	営農技術 やませ利用	国庫 研究
424	-2515	やませ利 用	ヒエ・アワの乾燥調製法	11～15	継		
425	-3212	畑作物	消費ニーズを踏まえた生産流通システムの実証 高付加価値雑穀の生産技術の現地実証 ヒエ・アワの無農薬栽培現地実証 ヒエ・アワの乾燥調製法	11～15	継		
426	713 -2000	やませ利 用 野菜	雨よけほうれんそう大型経営体育成のための技術確立 省力低コスト化技術体系の組み立て	13～15	継	営農技術 産地育成 生産工学 農業経営	県単 研究
427	520	有機農業 野菜	作型を利用したレタスの無農薬栽培技術	9～13	完	営農技術 環境保全 病理昆虫	令達
428	154 -2110	野菜 生産システム やませ利用	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 省力機械化体系に適した栽培技術の開発 定植機・収穫機等に対応したキャベツ栽培法の確立 定植苗の生育斉一化	9～13	完	産地育成 営農技術	国庫 研究

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
429	-2120		本畑での生育斉一化	9～13	完	産地育成 営農技術	
430	-3100	野菜 生産システム 農業農村	野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術 機械化畑輪作体系の実証と評価 機械化畑輪作体系の作物生産に対する評価	9～13	完	産地育成 農業経営 営農技術	
431	161	野菜 土壌作物	新肥料の肥効試験	11～13	完	産地育成	民間 委託
432	164 -3000	野菜	地域適応性に優れた品種の選定 キャベツの品種選定	9～13	完		県単 研究
433	-4000		ハウレンソウの品種選定	9～13	完		
434	-5000		ダイコンの品種選定	9～13	完		
435	173		調理用トマトの安定生産技術	11～13	完		
436	483 -2200	野菜 やませ利用	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立 高付加価値農産物の生産・流通技術の開発(技術開発試験) コマツナ等の冬春期安定生産技術の開発	11～13	完	産地育成 農業経営	国庫 研究
437	-2310		山菜の安定生産技術 ウルの母株養成技術の開発	11～15	継		
438	-2320		促成栽培に有望な山菜類の収集	11～15	継		
439	-2330		有望山菜の生産安定技術の検討	13～15	継		
440	-2410	花き やませ利用	特産的花きの商品化技術 有望品目・有望品種の収集及び選定	11～13	完		
441	-2420		有望品目・有望品種の栽培法の検討	12～14	継		
442	-2430		宿根草・花木を組み合わせた長期継続出荷体系の確立	13～15	継		
443	-3110		消費ニーズを踏まえた生産・流通システムの実証(体系化実証試験) 高付加価値花きの生産技術の現地実証 有望宿根草・花木の現地適応性	11～14	継		
444	-3120		低コスト高品質栽培の実証	12～14	継		
445	199	花き 地域活性化	寒冷地における法面の省力的管理・景観形成に適した植物種の選定及び低コスト増殖	12～14	継	産地育成	県単 研究
446	201 -3000	花き	地帯別気象特性を生かした花き生産の長期化技術 デルフィニウムの品種選定と栽培技術の確立	9～13	完		
447	484 -3000	花き やませ利用	県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立実証(一戸町小友地区) 花壇苗周年生産技術の確立	9～14	継		
448	344 -5000	花き 土壌作物	新肥料の実用化試験	11～13	完		民間 委託
449	713 -1100	やませ利 用 野菜	雨よけほうれんそう大型経営体育成のための技術確立 高位安定生産技術の確立 遮光方法の検討	13～14	継	産地育成 営農技術 農業経営	県単 研究
450	-1200		かん水方法の検討	13～14	継		
451	-1300		効率的安定生産技術の検討	13～14	継		
452	15 -3000	水稲	水稲生産力検定試験 生産力検定本試験(早生品種関係等)	9～13	完	やませ利用	令達
453	24 -2000		育成地間相互交換水稲系統適応性検定試験 早生水稲系統	9～13	完		
454	35 -2000		奨励品種決定予備調査(粳、糯) 早生品種	S29～13	完		県単 採種
455	36		奨励品種決定本調査(粳、糯) 早生品種	S29～13	完		
456	40 -1200		水稲作用新除草剤の効果の解明 水稲作用除草剤第2次適用性試験 県北適応性	S34～13	完	やませ利用 水田作	民間 委託
457	704 -2000	水稲 保鮮流通	米の食味改善診断技術の開発 早生水稲品種の食味診断技術開発	13～15	継		県単 研究

番号	課題番号	推進構想分野	課題名	研究期間	実施区分	担当研究室( ;主担当)	予算
458	47 -1110	水稲	栽培条件に対応した高品質・良食味生産技術の開発 水稲有望系統の栽培特性 「岩南16号」の栽培特性 作期・施肥法	12～15	継		
459	-1120		地域適応性・施肥法(現地試験)	12～15	継		
460	49 -2000	水稲 情報利用	水稲作況調査と作柄成立要因の解析 早生品種	S34～13	完	やませ利用 土壌作物栄養 病理昆虫	
461	50 -2000	水稲	水稲優良品種の気象反応試験 早生品種関係	S34～13	完	やませ利用	
462	82 -1000	畑作物	普通作物等の多収良質品種の育成 小麦奨励品種決定調査	S56～13	完	やませ利用 野菜畑作	県単 採種
463	-2000		大豆奨励品種決定調査	S29～13	完	やませ利用	
464	-3000		そば優良系統の選抜	13～15	継	やませ利用 野菜畑作 保鮮流通技術	県単 研究
465	483 -2511	畑作物 やませ利用	高付加価値農産物の生産・流通技術の開発(技術開発試験) 雑穀類の高付加価値化技術 ヒエ・アワの無農薬機械化栽培技術 ヒエの育苗法の検討	11～15	継	やませ利用 営農技術	国庫 研究
466	-2512		アワの除草法の検討	11～15	継		
467	-2513		ヒエの無農薬水田移植栽培技術の検討	11～15	継		
468	-3210		消費ニーズを踏まえた生産・流通システムの実証(体系化実証試験) 高付加価値雑穀の生産技術の現地実証 ヒエ・アワの無農薬機械化栽培現地実証	11～15	継		
469	754	畑作物	新規需要・高機能性品種・系統の選定 高製パン適性小麦系統「東北214号」の高品質・安定多収栽培技術	13～15	継	やませ利用 野菜畑作	国庫 委託
470	90		大豆系統適応性検定試験	S45～13	完	やませ利用	
471	93 -1000		革新的農業技術・経営実証 大豆無培土栽培現地実証	11～13	完		令達
472	99 -1000		新資材の実用化 子床用ポット 生分解性資材	12～13	完		民間 委託
473	-2000		育苗用培土	12～13	完	やませ利用 営農技術	
474	101 -1000		気象と作物の生育相解析 小麦作況調査	S57～13	完	やませ利用 野菜畑作	県単 研究
475	-2000		大豆作況調査	S57～13	完		
476	316 -3000	環境保全 畑作物	環境にやさしいマルチ資材等利用技術 鍬込み可能マルチの葉たばこ栽培への適応性	10～13	完	やませ利用	
477	739 -2100	生産システム 畑作物	寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術開発 麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発 立毛間播種に適応した麦・大豆栽培技術の確立	13～17	継	やませ利用 営農技術 野菜畑作	国庫 研究
478	171 -1110	やませ利 用 野菜 土壌作物	北部沿岸農地開発地域における大規模野菜作経営の実証 農地開発地における持続型高収益野菜モデル経営の実証 継続実施可能な有機物施用方法の検索 畜産由来有機物利用による低コスト土壌改良効果実証	13～15	継	やませ利用 営農技術	県単 研究
479	-1210		高収益土地利用型野菜等を組み入れた畑輪作体系の確立 緑肥を組み入れた普代型モデル畑輪作体系の実証	13～15	継		

(3) 要望課題の実施

ア 平成 10～13 年度実施要望分

区分	計	平成 13 年度措置及び実施状況									備 考
		未着手のもの		13 年度着手したものの実施状況			そ の 他				
		A 1	A 2	B1-a	B1-b	B1-c	B 2	C	D		
平成 12 年度 措 置	A 1	4 4	1	1	7	2 6	8		1		
	A 2	1 8	2	1 1							B1：前倒しで実施
	B 1	2 4 3			4 6	100	2 8	1	4 9	1 7	A1：新規課題に組み替え等 C：12 年度研究成果として提出 D：組織再編等により対応困難
	B 2	2 0			1		2	1 7			
	合計	3 2 5	5	1 2	5 4	130	3 9	1 8	5 0	1 7	

注 1：平成 13 年度措置及び実施状況区分

- A 1 (14 年度実施予定)
- A 2 (15 年度以降実施予定)
- B1-a (現在実施中、年度内取りまとめ)
- B1-b (現在実施中、1～2 年後取りまとめ)
- B1-c (現在実施中、しばらくかかる)
- B 2 (県以外の研究機関)
- C (既知見あり)
- D (実施できない)

平成 12 年度措置及び実施状況区分

- A 1 (13 年度実施予定)
- A 2 (14 年度以降実施予定)
- B 1 (現在実施中)
- B 2 (県以外の研究機関)

注 2：措置数は延べ数。1 要望課題に複数の措置がある場合は個々にカウント。

措置状況調査課題数は、252 課題 (H10：72、H11：39、H12：64、H13：77)

総要望課題数は、379 課題 (H10：131、H11：78、H12：73、H13：97)

1 課題内で全ての措置が「C」もしくは「D」となった時点で調査対象より削除。

イ 平成13年度試験研究実施要望課題の措置及び実施状況一覧

総合部門（経営）		平成13年度措置及び実施状況									備 考
		A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平成12年度措置	A1(13年度実施予定)			1	7					8	
	A2(14年度以降実施予定)										
	B1(現在実施中)				5					5	
	B2(県以外の研究機関)										
	C(既知見あり)							4		4	
	D(実施できない)										
計				1	12			4		17	
農産部門		A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平成12年度措置	A1(13年度実施予定)	1			2					3	
	A2(14年度以降実施予定)										
	B1(現在実施中)			2	4					6	
	B2(県以外の研究機関)						1			1	
	C(既知見あり)							6		6	
	D(実施できない)								2	2	
計		1		2	6		1	6	2	18	
園芸畑作部門		A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平成12年度措置	A1(13年度実施予定)			5	5	3		1		14	H14 新規課題 H13～試験開始
	A2(14年度以降実施予定)	1	2							3	
	B1(現在実施中)			2	9	1		2		15	
	B2(県以外の研究機関)									3	
	C(既知見あり)							13		13	
	D(実施できない)								4	4	
計		2	2	8	14	6		16	4	52	
総合部門（生産環境部門）		A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平成12年度措置	A1(13年度実施予定)			1	6	1				8	H14～実施
	A2(14年度以降実施予定)		2							2	
	B1(現在実施中)			2	9	2		6		20	
	B2(県以外の研究機関)						1			1	
	C(既知見あり)							12		12	
	D(実施できない)								2	2	
計		1	2	3	15	3	1	18	2	45	
畜産部門		A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平成12年度措置	A1(13年度実施予定)				1	3				4	
	A2(14年度以降実施予定)										
	B1(現在実施中)			1	3					4	
	B2(県以外の研究機関)						2			2	
	C(既知見あり)							4		4	
	D(実施できない)								1	1	
計				1	4	3	2	4	1	15	
全 体		A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平成12年度措置	A1(13年度実施予定)	1		7	21	7		1		37	
	A2(14年度以降実施予定)	1	4							5	
	B1(現在実施中)	2		7	30	3		8		50	
	B2(県以外の研究機関)			1		2	4			7	
	C(既知見あり)							39		39	
	D(実施できない)								9	9	
計		4	4	15	51	12	4	48	9	147	

平成13年度措置及び実施状況区分

A 1（14年度実施予定）

A 2（15年度以降実施予定）

B1-a（現在実施中、年度内取りまとめ）

B1-b（現在実施中、1～2年後取りまとめ）

B1-c（現在実施中、しばらくかかる）

B 2（県以外の研究機関）

C（既知見あり）

D（実施できない）

ウ 平成12年度試験研究実施要望課題の措置及び実施状況一覧(13年度)

総合部門(経営)		H12 措置	平成13年度措置及び実施状況								備 考	
			A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D		計
11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1				2					2	
	A2(13年度以降実施予定)	A 1				2					2	
		A 2		1							1	
	B1(現在実施中)	B 1			1	2	1		2		6	
	計			1	1	6	1		2		11	
農産部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1			1	4					5	
	A2(13年度以降実施予定)	A 2					1				1	
		B 1				1					1	
	B1(現在実施中)	B 1			1	4		1			6	
	B2(県以外の研究機関)	B 2						2			2	
計				2	9	1	3			15		
園芸畑作部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1				3	2		1		6	組織再編のため対応困難
	B1(現在実施中)	B 1				2	9		1		14	
	B2(県以外の研究機関)	B 2						3			3	
	計					5	11	3	2	2	23	
総合部門(生産環境部門)		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平 成 11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1				2	1				3	現地調査不十分
	A2(13年度以降実施予定)	A 1				1					2	
		A 2		1							1	
	B1(現在実施中)	B 1					2				2	
		A 1				1					1	
	B2(県以外の研究機関)	B 1			3	6			11		24	国研へ課題要望
		B 2			3						3	
計			2	6	10	3	3	11	4	39		
畜産部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1			3						3	
	B2(県以外の研究機関)	B 2						1			1	
	計				3			1			4	
全 体		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平 成 11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1			4	11	3		1		19	
	A2(13年度以降実施予定)	A 1		1		3					4	
		A 2		2			1				3	
	B1(現在実施中)	B 1				1	2				3	
		A 1				1					1	
	B2(県以外の研究機関)	B 1			5	14	10	1	14	6	50	
		B 2			3						3	
計			3	12	30	16	10	15	6	92		

平成13年度措置及び実施状況区分

- A 1 (14年度実施予定)
- A 2 (15年度以降実施予定)
- B1-a (現在実施中、年度内取りまとめ)
- B1-b (現在実施中、1~2年後取りまとめ)
- B1-c (現在実施中、しばらくかかる)
- B 2 (県以外の研究機関)
- C (既知見あり)
- D (実施できない)

平成12年度措置及び実施状況区分

- A 1 (13年度実施予定)
- A 2 (14年度以降実施予定)
- B 1 (現在実施中)
- B 2 (県以外の研究機関)

エ 平成11年度試験研究実施要望課題の措置及び実施状況一覧(13年度)

総合部門(経営)		H12 措置	平成13年度措置及び実施状況								備 考	
			A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D		計
11 年度 措置	B1(現在実施中)	A 1									2	H13 新規課題
		B 1			1	2					3	
	計				1	4					5	
農産部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年度 措置	B1(現在実施中)	A 1									2	H13 新規課題
		B 1				2					2	
	計					4					4	
園芸畑作部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年度 措置	A2(13年度以降実施予定)	A 2	1								1	組織再編のため対応困難
	B1(現在実施中)	B 1			5	10			3		19	
	計		1		5	10			3	1	20	
総合部門(生産環境部門)		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平 11	B1(現在実施中)	B 1			4	4			3		14	国研へ課題要望
	計				4	4			3	3	14	
畜産部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
平 11	B1(現在実施中)	B 1				3					3	
	計					3					3	
全 体		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計	
11 年度 措置	A2(13年度以降実施予定)	A 2	1								1	
	B1(現在実施中)	A 1				4					4	
	計	B 1			10	21			6	4	41	
			1		10	25			6	4	46	

平成13年度措置及び実施状況区分

- A 1 (14年度実施予定)
- A 2 (15年度以降実施予定)
- B1-a (現在実施中、年度内取りまとめ)
- B1-b (現在実施中、1~2年後取りまとめ)
- B1-c (現在実施中、しばらくかかる)
- B 2 (県以外の研究機関)
- C (既知見あり)
- D (実施できない)

平成12年度措置及び実施状況区分

- A 1 (13年度実施予定)
- A 2 (14年度以降実施予定)
- B 1 (現在実施中)
- B 2 (県以外の研究機関)

オ 平成10年度試験研究実施要望課題の措置及び実施状況一覧(13年度)

総合部門(経営)		H12 措置	平成13年度措置及び実施状況								備 考		
			A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D		計	
平 11	B1(現在実施中)	B 1				3			1		5	課題打ち切り	
	計					3			1	1	5		
農産部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計		
平 成 11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1					1				1	H13 新規課題 実施困難	
	A2(13年度以降実施予定)	A 1					1				1		
		A 2		1									1
	B1(現在実施中)	A 1											1
		B 1			5	4	1		5				17
		B 2						1					1
	B2(県以外の研究機関)	B 1					1						1
B 2							8				8		
計			1	5	5	4	9	5	2		31		
園芸畑作部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計		
11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1					1				1	組織再編のため対応困難	
	A2(13年度以降実施予定)	A 2		3							3		
	B1(現在実施中)	B 1			4	6	4		6		21		
	B2(県以外の研究機関)	B 2						3			3		
	計			3	4	6	5	3	6	1			28
総合部門(生産環境部門)		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計		
11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1					1				1	対応困難	
	B1(現在実施中)	B 1			6	8	1		8		26		
	B2(県以外の研究機関)	B 2						1			1		
	計				6	8	2	1	8	3			28
畜産部門		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計		
11 年 度 措 置	A2(13年度以降実施予定)	A 2		1							1		
	B1(現在実施中)	B 1			2	2					4		
	計			1	2	2					5		
全 体		H12	A1	A2	B1-a	B1-b	B1-c	B2	C	D	計		
平 成 11 年 度 措 置	A1(12年度実施予定)	B 1					3				3		
	A2(13年度以降実施予定)	A 1					1				1		
		A 2		5									5
	B1(現在実施中)	A 1				1							1
		B 1			17	23	6		20	7			73
		B 2						1					1
	B2(県以外の研究機関)	B 1					1						1
B 2							12				12		
計			5	17	24	11	13	20	7		97		

平成13年度措置及び実施状況区分

- A 1 (14年度実施予定)
- A 2 (15年度以降実施予定)
- B1-a (現在実施中、年度内取りまとめ)
- B1-b (現在実施中、1~2年後取りまとめ)
- B1-c (現在実施中、しばらくかかる)
- B 2 (県以外の研究機関)
- C (既知見あり)
- D (実施できない)

平成12年度措置及び実施状況区分

- A 1 (13年度実施予定)
- A 2 (14年度以降実施予定)
- B 1 (現在実施中)
- B 2 (県以外の研究機関)



カ 平成 13 年度試験研究実施要望課題の措置状況

凡例 平成 12 年度：A1=平成 13 年度実施予定、A2=平成 14 年度以降実施予定

B1=現在実施中、B2=県以外の研究機関

C=既知見あり、D=実施できない

平成 13 年度：A1=平成 14 年度実施予定、A2=平成 15 年度以降実施予定

B1=現在実施中、B2=県以外の研究機関（a=年度内とりまとめ、b=1～2年後

とりまとめ、c=しばらくかかる）（B1-a、B2-c等と表記する）

C=既知見あり、D=実施できない

区分		整理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
部会名	No.					H12	H13	
総合(経営)	4	59	水稲アイガモ農法導入による経営評価	盛岡農業改良普及センター	農業経営	A1 C	B1-a	
総合(経営)	5	53	本県野菜作農家の経営構造の解明、類型化と類型毎の支援策の確立	農産園芸課	農業経営	A1 B1	B1-b B1-b	
総合(経営)	6	64	主業型野菜農家を育成するための経営モデル類型の作成	盛岡農業改良普及センター	農業経営 野菜畑作	A1 B1	B1-b B1-b	
総合(経営)	7	73	大規模りんどう経営の育成方向	湯田地域普及所	農業経営 花き	A1 C	B1-b	
総合(経営)	8	88	農業法人の育成支援対策について	地域農業振興課	農業経営	A1 C	B1-b	
総合(経営)	9	90	今後育成すべき経営体とその育成策の提示	専門技術員室	農業経営	A1 B1	B1-b B1-b	
総合(経営)	10	86	中山間地域等直接支払制度の導入による効果検証	地域農業振興課	農業経営	A1	B1-b	
総合(経営)	11	91	経営能力に優れた経営体の育成と産地体制のあり方の提示	専門技術員室	農業経営	A1 C	B1-b	
総合(経営)	12	87	主業型農家に対する農地の集積利用について	地域農業振興課	農業経営	B1	B1-b	
総合(経営)	13	89	農林業センサスと主業型農家データベースに基づいた地域農業の振興方策と主業型農家の育成対策の提示	専門技術員室	農業経営	B1	B1-b	
農産	1	82	水稲種子の登熟条件の違いによる発芽生理特性の解明と育苗技術の検討	岩手県経済連	水田作 病理昆虫	A1 B1 C	B1-b B1-b	
農産	4	9	冷害常襲地帯における耐冷性・品質を重視した水稲肥培管理技術の確立	久慈農業改良普及センター	やませ利用 水田作 土壌作物栄養	B1 C	B1-b	
農産	5	10	「密植千鳥植え」による高品質安定性産技術の確立	久慈農業改良普及センター	水田作 生産工学 土壌作物栄養 やませ利用	B2 D	B2-c D	
農産	7	49	乾田播種早期湛水直播(折衷直播)栽培技術の開発	農産園芸課	生産工学 水田作	B1 C	B1-b	
農産	8	51	米の食味改善診断システムの開発	農産園芸課	水田作 土壌作物栄養	A1 B1	B1-b B1-b	H13～新規課題
農産	9	47	県産自主流通米の流通過程における品質の低下の実態とその対策	農産物流通課	水田作 保鮮流通技術	D	D	
農産	10	4	畦畔雑草防除のためのネット被覆法	一関農業改良普及センター	生産工学	B1 C	B1-a	

区分		整理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
農産	12	13	水田麦・大豆の作付けに対応した基盤整備手法の確立	農村計画課	生産工学	B1 C	B1-a	
農産	14	93	近年、市販されている補助暗渠機械の効果確認	専門技術員室	生産工学	A1 C	A1	
園芸畑作	1	62	9月下旬から10月上旬に販売できる省力りんご品種の育成	盛岡農業改良普及センター	果樹	B1	B1-b	
園芸畑作	2	77	リンゴの赤色新品種の開発	大船渡農業改良普及センター	果樹	B1	B1-b	
園芸畑作	3	71	りんご樹体内貯蔵養分の測定評価技術の開発と貯蔵養分増加対策	北上農業改良普及センター	果樹 土壌作物栄養	A1 C	B1-c	
園芸畑作	4	8	県北沿岸部における山ぶどうの安定性産技術の確立	久慈地方振興局 久慈農業改良普及センター	果樹	A1 C	B1-c	
園芸畑作	5	63	ぶどう平棚短梢仕立てによる大粒種の栽培技術の確立	盛岡農業改良普及センター	果樹	A1 C	B1-c	
園芸畑作	6	21	きゅうり栽培の総合的な省力化技術の確立	二戸農業改良普及センター	野菜畑作	A2 B1 C D	A1 C D	H12 成果（普及）
園芸畑作	7	80	きゅうり接木育苗時の奇形葉の発生原因と収量・品質に及ぼす影響	岩手県経済連	野菜畑作 土壌作物栄養	A1 B2	B1-a B1-a	
園芸畑作	11	32	カラーピーマンにおける果皮ひび割れ軽減技術の確立	岩泉地域普及所	野菜畑作	A1 D	B1-b D	
園芸畑作	12	66	いちご高設栽培における施肥方法の確立	盛岡農業改良普及センター	南部園芸 土壌作物栄養	A1	B1-b	H13～新規課題
園芸畑作	13	26	枝豆の採種について	軽米地域普及所	野菜畑作 やませ利用	A1 B1 C	C C	H12 成果（行政） 同上
園芸畑作	14	7	夏期における雨よけほうれんそうの安定生産技術	久慈地方振興局 久慈農業改良普及センター	産地育成 野菜畑作	B1 C	B1-b	
園芸畑作	15	19	雨よけほうれんそうの高温期安定生産技術	二戸農業改良普及センター	産地育成 野菜畑作	B1 C	B1-b	
園芸畑作	16	81	雨よけほうれんそうの成育中灌水法の確立	岩手県経済連	産地育成 保鮮流通技術 病理昆虫	B1 C	B1-b	
園芸畑作	17	18	県南部におけるキャベツの夏どり作型の確立	花巻農業改良普及センター	野菜畑作	A1	B1-a	
園芸畑作	18	54	本県産キャベツの市場競争力の向上方策	農産園芸課	産地育成 野菜畑作	A1 B1 C	B1-a B1-a	
園芸畑作	19	22	夏秋ねぎの適品種選定	二戸農業改良普及センター	産地育成 野菜畑作	B1	A1	H14～作型別適品種選定試験開始。
園芸畑作	20	36	加工適性のある大豆極早生品種	千厩農業改良普及センター	野菜畑作	B1	B1-b	
園芸畑作	21	52	麦・大豆立毛間大豆・麦播種技術の本県における適応性について	農産園芸課	野菜畑作	B2 C	B1-c	H13～試験開始（地域基幹研究）
園芸畑作	23	97	県中南部における水稻あと小麦の栽培技術	専門技術員室	野菜畑作 生産工学	A1 B1 C	B1-b B1-b	

区分		整理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
園芸畑作	24	78	小麦の部分耕栽培技術の確立	岩手県経済連	野菜畑作	B1	B1-b	
						B2	B1-c	
園芸畑作	25	96	水田における小麦の安定化のための播種技術	専門技術員室	野菜畑作 生産工学	A1	B1-a	
						B1	B1-b	
						C		
園芸畑作	26	72	大豆跡晩播小麦の栽培法の確立	北上農業改良普及センター	野菜畑作	A1	B1-a	
園芸畑作	27	5	超早生りんどうの品種育成	一関農業改良普及センター	花き	B1	B1-c	
園芸畑作	28	33	りんどうの株仕立て法の確立	岩泉地域普及所	花き	B1	B1-a	
						D	D	
園芸畑作	29	23	りんどうの除草の体系化	二戸農業改良普及センター	花き	A2	A2	
園芸畑作	30	29	りんどう栽培における除草剤の利用体系について	宮古農業改良普及センター	花き	A2	A2	
園芸畑作	32	42	スターチス・シヌアータの収量向上技術	千厩農業改良普及センター	花き	A1	B1-b	
						C		
園芸畑作	33	12	太陽熱利用のハウス簡易暖房施設の試作開発	久慈農業改良普及センター	南部園芸 生産工学	A1	B1-b	H13～新規課題
						D	D	
総合 (生産環境)	1	75	稲わら施用田における水稲有機物施用基準の策定	湯田地域普及所	土壌作物栄養 営農技術	B1 C	C	H12 成果(指導) (豚ふん以外の有機物については試験継続中)
総合 (生産環境)	2	38	水稲減農薬防除体系の評価及び減農薬栽培法の確立	千厩農業改良普及センター	環境保全	A1	B1-b	
						B1	B1-b	
総合 (生産環境)	3	74	水稲減農薬栽培法の確立	湯田地域普及所	環境保全 病理昆虫	A1	B1-b	
						B1	C	
						C		
総合 (生産環境)	4	55	葉もち育苗期感染苗に対する育苗箱施用剤等の防除効果及び残効期間の解明	病害虫防除所	病理昆虫	B1 C	C	H12 成果(指導)
総合 (生産環境)	5	35	小麦の増収および品質向上を図るための融雪期栄養診断基準	千厩農業改良普及センター	土壌作物栄養 野菜畑作	B1	B1-b	
						C		
						D	D	
総合 (生産環境)	6	3	大豆生育への肥料(塩化カリウム)の影響	一関農業改良普及センター	土壌作物栄養 野菜畑作	B1 C	C	H12 施肥合成績書
総合 (生産環境)	7	48	新しい大豆加工食品の開発	農産物流通課	保鮮流通技術	B1	B1-a	
総合 (生産環境)	8	79	新制度下における麦・大豆の成分分析手法の開発及び栽培法と成分の関連について(特に大豆)	岩手県経済連	保鮮流通技術 野菜畑作	B1 C	C	分析手法に関する情報提供済
総合 (生産環境)	9	11	葉茎菜類の植物体内養分簡易測定法の開発	久慈農業改良普及センター	保鮮流通技術	A1 C	B1-c	
総合 (生産環境)	10	69	IPM(総合的病害虫管理)を推進するきゅうり害虫防除体系の確立	農業普及技術課	環境保全 病理昆虫 営農技術	A1	B1-b	
						B1	B1-b	
総合 (生産環境)	11	94	キャベツの畦内局所施肥(条状)技術の確立	専門技術員室	営農技術 土壌作物栄養 生産工学	A1	B1-a	
						B1	B1-a	
						C		
総合 (生産環境)	14	61	りんご病害虫防除での農薬散布回数削減技術の確立	盛岡農業改良普及センター	病理昆虫 環境保全 果樹	B1	B1-b	

区分		整理 No.	要望課題名	要望機関	回答研究室	措置状況		備考 (方針変更理由)
総合 (生産環境)	15	95	性フェロモン利用りんご園における天敵利用の確立	専門技術員室	病理昆虫 環境保全	A1	B1-b	
						B1	B1-b	
						B2	B2	
総合 (生産環境)	16	56	リンゴ炭疽病の発生生態の解明と防除対策	病害虫防除所	病理昆虫	B1 C	B1-b	
総合 (生産環境)	17	57	リンゴハダニ類の殺ダニ剤抵抗性検定の実施及び簡易検定法の開発	病害虫防除所	病理昆虫	B1	B1-b	
総合 (生産環境)	18	16	紅伊豆のハダニ類防除体系の確立	花巻農業改良普及センター	病理昆虫	A2	A2	現地での状況調査が不十分。
総合 (生産環境)	19	67	花き病害虫防除マニュアルの作成	盛岡農業改良普及センター	病理昆虫	A2 B1 C	A2 C	きくについてH14以降検討予定。 りんどうについてH13防除基準及び花き指導指針に提示。
総合 (生産環境)	20	41	花き(りんどう)のカメムシ防除技術の確立	千厩農業改良普及センター	病理昆虫	B1	B1-c	現地での症例特定できず。
総合 (生産環境)	22	50	土壌診断による堆厩肥の施用適量の判定	農産園芸課	土壌作物栄養 環境保全 営農技術	B1 C	B1-b	
総合 (生産環境)	23	84	岩手県内で産出される各種畜産由来肥料のみによる農産物生産特性の解明	岩手県経済連	土壌作物栄養 環境保全 飼料生産 営農技術	A1 B1 C	B1-b B1-b	
総合 (生産環境)	24	70	在来天敵の主要害虫に対する密度抑制効果の解明	農業普及技術課	病理昆虫 環境保全 営農技術	A1 D	B1-b	
総合 (生産環境)	25	83	農産加工技術の開発・指導	岩手県経済連	保鮮流通技術	B1	B1	恒常的な継続業務
総合 (生産環境)	26	85	農業研究センター内で栽培される農作物中の各種成分の測定	岩手県経済連	環境保全 土壌作物栄養 保鮮流通技術	B1	A1	H14～一部実施
畜産	1	1	堆肥発酵促進資材の効果判定	二戸地方振興局	飼料生産	B2	B2	
畜産	2	6	日本短角種牛肉の品種特性分析について	久慈地方振興局	家畜育種	B1 C CC D	B1-b D	
畜産	3	24	家畜ふん尿堆肥の簡易な品質判定法の確立及び採草地、飼料畑における許容還元量増強技術の確立	二戸農業改良普及センター	飼料生産 土壌作物栄養	B1 C	B1-a	
畜産	4	30	肥育牛舎の敷き料としての戻し堆肥の活用方法	宮古農業改良普及センター	家畜育種 家畜飼養 飼料生産	A1	B1-b	
畜産	5	37	被覆植物を活用した飼料畑の雑草抑制技術の確立	千厩農業改良普及センター	飼料生産	A1	B1-c	
畜産	6	44	高能力牛の育成期飼養管理技術の確立	畜産課	家畜飼養	A1	B1-c	
畜産	7	45	黒毛和種の放牧促進に係る実証的研究	畜産	外山畜産	A1 B1 C	B1-c B1-b	
畜産	8	46	牛舎施設等の改善が酪農経営に及ぼす効果の調査・分析	畜産課	家畜飼養 農業経営	B1 B2 C	B1-b B2	

#### 4 共同研究の推進

##### (1) 地域基幹農業技術体系化促進研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術	北海道北見農試 北海道上川農試 福島農試	9～13	岩手県北部山麓地帯における露地野菜を中心とした機械化畑輪作体系の確立	産地育成
新品種の導入等を基幹とした公共草地の高度利用技術	北海道根釧農試 北海道新得畜試 青森畜試	9～13	北上山地における公共草地の高度利用のための貯蔵粗飼料生産・供給システムの確立	飼料生産
東北地域における環境保全型農業を基幹とした重要野菜の安定生産技術	福島農試	10～14	キャベツ根こぶ病を対象とした耕種的対策を含めた総合防除による栽培管理技術の確立	営農技術
寒冷地北部地域における超省力水稻生産技術と地域営農システム	青森農試 秋田農試 宮城農セ	11～14	寒冷地北部地域の気象条件下での水稻の直播栽培技術及び同技術を導入した地域営農システムの確立	水田作
ロングマット苗移植・不耕起乾田直播を導入した省力・低コスト生産技術	長野農総試 埼玉農試 茨城農総セ	11～14	水稻のロングマット苗移植・不耕起乾田直播技術を導入した低コスト高生産性水田営農体系を確立	生産工学
不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術	栃木農試 愛知農総試	11～15	不耕起・無中耕・無培土技術を中心とした超省力栽培体系の確立による転換畑大豆作の規模拡大	野菜畑作
中山間地域における産地マーケティングに基づく特産的高付加価値農産物生産技術	青森畑園試	11～15	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立	農業経営
市場評価向上を目指した黒毛和種肥育素牛の集約放牧技術	北海道新得畜試 青森畜試 福島畜試	11～15	放牧肥育素牛の発育改善、肥育成績向上のための技術対策	外山畜産
新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感りんごの生産技術	青森りんご試 山形園試 長野果樹試	12～16	食味本位の果実を安定して省力的に生産・供給する技術の確立	果樹
寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作技術の確立	宮城古川農試 山形農試	13～17	東北部地域での立毛間播種機利用による小麦・大豆輪作技術の確立	生産工学

##### (2) 先端技術等地域実用化研究促進事業

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
優良種畜の安定的大量生産技術の開発	北海道新得畜試 山梨酪農試 兵庫中央農セ 広島畜技セ 島根畜試 徳島畜試 熊本農研セ	10～15	高能力牛胚の大量生産や家畜改良における世代間隔短縮のための核移植技術の開発	家畜工学
りんごわい化栽培における省力・安定生産のためのJM台木利用・早期成園化技術の開発	秋田果樹試 宮城農・園総合研 福島果樹試 長野果樹試	11～15	挿し木繁殖性に優れ、高品質果実生産が期待できるJM系わい性台木を利用した低樹高栽培法の確立	果樹
寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立	山形得園試 福島農試 鳥取園試	12～16	寒冷地に適した露地向け花き品目である枝物花木類の栽培技術の確立	花き
大区画水田における低コスト・効果的暗渠排水による汎用化技術の確立	千葉農試 茨城農業総合セ 埼玉農試	12～14	北東北地方における汎用化水田のための簡易で効果的な暗渠排水技術の確立	生産工学

## (3) 21世紀型農業経営モデル実証試験

課 題 名	振興局 (市町村名)	研 究 期 間	実 証 研 究 課 題	担 当 研 究 室
畑地かんがい地域における野菜、花き等の高収益モデル実証	盛岡 (岩手町)	13～15	(1)有機質資源の活用指針の作成 (2)効率の高い稲作・転作営農技術の確立 (3)土壌水分予測に基づく効率的かん水技術の開発	営農技術
水田を活用した持続的作付体系及び優良種苗の安定確保によるサトイモ産地強化の実証	北上 (北上市)	13～15	(1)根腐病対策を中心とした水田活用による持続型作付体系の実証 (2)優良種苗の現地選抜	野菜畑作 応用生物 病理昆虫
大規模ほ場整備地区におけるほ場畦畔の雑草抑制と景観形成技術確立	水沢 (胆沢町)	13～15	(1)町委託事業への参画による有望 GCP の検討 (2)有望 GCP の増殖管理技術の検討	水田作 生産工学
水田地帯における園芸生産の高度・安定化「いちご栽培における省力技術の導入による高度生産化」	一関 (花泉町)	13～15	(1)新品種導入に際する技術支援 (2)短日処理技術実証に係る技術支援 (3)導入技術に対する経営モデル確立	南部園芸
東磐井地区における園芸省力安定生産モデル経営の実証	千厩 (大東町)	13～15	(1)トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証確立	南部園芸
ほ場整備地区における園芸団地形成に向けた農業経営の確立	大船渡 (陸前高田市)	13～15	(1)農業経営モデルの分析・評価	農業経営
雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大	遠野 (遠野市)	13～15	(1)ほうれんそう大型経営の栽培技術実証	野菜畑作 産地育成
沿岸中山間地域における花き周年生産モデルの確立	宮古 (宮古市)	13～15	(1)トルコギキョウの良品生産技術の指導 (2)スプレーグクの日長管理技術の指導 (3)チューリップの良品生産技術の指導 (4)良品生産に向けた病虫害防除体系の確立 (5)花き周年栽培モデル体系の確立	花き 病理昆虫
大規模畑作における輪作を基本とした園芸作物の普代型安定生産技術体系の確立	久慈 (普代村)	13～15	(1)野菜・緑肥を中心とした輪作体系の確立 (2)灌漑施設を利用した野菜安定栽培技術の確立 (3)新規開発畑における土壌管理・輪作マニュアルの策定 (4)経営感覚に優れた主業型農家の育成	やませ利用 農業経営 営農技術
県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立実証	二戸 (一戸町)	12～14	(1)秋だしパンジー栽培技術の確立 (2)花壇苗周年生産技術の確立 (3)花き栽培施設を有効活用した山菜促成栽培の実証	産地育成

## (4) 岩手県生物工学研究所との共同研究

課 題 名	担当研究室
いもち病抵抗性関連遺伝子を導入した水稲の耐病性評価	応用生物工学
DNA マーカーを用いた水稲特性検定法の確立	水稲育種 応用生物工学
りんどう病原ウイルス (CMV 等) の検出・診断技術の利用	応用生物工学
トマト黄化えそウイルス (TSWV) の検出・診断技術の確立及び利用	病理昆虫
耐病性関連遺伝子を導入したりんごの系状菌病抵抗性評価	応用生物工学
リンゴ根頭がんしゅ病菌の検出・診断技術の確立と利用	病理昆虫 応用生物工学
ピーマン病原ウイルス (PMMV) の検出・診断技術及び系統解析技術の利用	応用生物工学
ナス科作物青枯病菌の検出・診断技術の利用	応用生物工学

## (5) 大学との共同研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
雑穀の食品機能及び遺伝子解析研究と地域連携食品開発	岩手大学	11～13	雑穀(キビ、アワ、ヒエ等)の脂質代謝改善機能成分等の探索、遺伝子解析による品種識別法の解明、省力栽培技術の確立並びに地元食品企業と連携した新加工食品の開発研究について調査検討する。	やませ利用
カイコ及び野蚕からの新規機能性物質の利用開発	岩手大学	12～15	カイコの抗カビ性物質や天蚕の休眠制御物質、天蚕フィブロインからの化粧水等の新機能性物質と関連化合物を農業生産場面で効率的に利用する方法と医療場面で有効に活用する方法を開発する。	病理昆虫

## (6) A F R 研究会

名 称	構 成	研究期間	担当研究室
花卉育種研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	花き
昆虫機能利用研究会	岩手大学農学部、農業研究センター、岩手医大、生物工学研究所	10～	病理昆虫
植物育種研究会	岩手大学農学部、教育学部、生物工学研究所、東北農業研究センター、農業研究センター	10～	水稻育種
農作物ウイルス病診断防除研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	病理昆虫
機能性食品研究会 A	岩手大学農学部、工業技術センター、東北農業研究センター、農業研究センター、二戸農業、浄法寺農業、カナン牧場、(株)ミッシェル、花巻起業化支援センター	10～	やませ利用
機能性食品研究会 B	岩手大学農学部、工業技術センター、農業研究センター、黒川食品(株)、花巻起業化支援センター	10～	野菜畑作
農作業システム自動化研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	10～	生産工学
水稻栽培研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	11～	水田作
果樹栽培研究会	岩手大学農学部、農業研究センター	11～	果樹
リンドウ研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、農業研究センター、安代町花き開発センター	11～	応用生物工学
植物耐冷性研究会	岩手大学農学部、農研センター、生物工学研究所	12～	水稻育種 水田作
雑穀の病害虫に関する研究会	岩手大学農学部、農研センター	12～	病理昆虫 営農技術
有機質資源循環利用研究会	岩手大学農学部、工業技術センター、農業研究センター	12～	飼料生産 土壌作物栄養
始原生殖細胞 (PGCs) 利用研究会	岩手大学農学部、農研センター、小岩井農牧	13～	家畜育種

## (7) その他の共同研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
野菜の内部品質向上対策のための品質評価に関する研究	岩手県経済農業協同組合連合会	13～15	(1) 野菜の内部品質評価のための簡易分析法開発及び成分変動要因の解析 (2) 化学分析による成分評価及び県産野菜の成分実態調査	保鮮流通技術

5 現地試験の実施

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
開発技術の経営評価と生産・流通システムの策定	軽米町	晴山	企画経営情報部 農業経営研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	雫石町	上野	農産部 水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	紫波町	大巻、南日詰	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	西根町	大更	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	花巻市	矢沢	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	沢内村	前郷	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	胆沢町	小山	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	江刺市	稲瀬	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	花泉町	花泉	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	千厩町	千厩	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	遠野市	青笹	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	山田町	豊間根	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	陸前高田市	竹駒町	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	種市町	宿戸	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	浄法寺町	浄法寺	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	紫波町	南日詰	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	一関市	巖美町	水田作研究室
奨励品種決定現地調査 (水稲)	一関市	山屋	水田作研究室
水稲有望新系統の早期栽培持性把握試験「岩南 25 号」	紫波町	南日詰	水田作研究室
水稲有望新系統の早期栽培持性把握試験「岩南糯 19 号」	紫波町	平沢	水田作研究室
水稲有望新系統の早期栽培持性把握試験「岩南糯 19 号」	紫波町	片寄	水田作研究室
寒冷地北部におけるホールクローブサイレージ用イネの栽培実証 (21世紀プロ3系)	遠野市	青笹	水田作研究室
早生良質・良食味水稲品種「いわてっこ (岩南 16 号)」の栽培法	遠野市	上郷	水田作研究室
早生良質・良食味水稲品種「いわてっこ (岩南 16 号)」の栽培法	遠野市	土淵	水田作研究室
早生良質・良食味水稲品種「いわてっこ (岩南 16 号)」の栽培法	遠野市	土淵	水田作研究室
大区画湛水直播による低コスト稲作技術の確立 (地域基幹)	花巻市	宮野目	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	前沢町	白山	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	一関市	中里	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	水沢市	佐倉河	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	江刺市	鱒背	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	東和町	前田	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	花巻市	西宮野目	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	北上市	飯豊	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	胆沢町	北大畑	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	雫石町	西安庭	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	石鳥谷町	中寺林	水田作研究室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	西根町	田頭	水田作研究室



内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 ( 純情米総合実証展示ほ ) 県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 ( 純情米総合実証展示ほ ) 県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 ( 純情米総合実証展示ほ )	九戸村 遠野市 遠野市	荒屋 青笹 土淵	農産部 水田作研究室 水田作研究室 水田作研究室
不良環境地帯向け水稻品種の育成 稲いもち病抵抗性極強品種・系統の育成	沢内村 金ヶ崎町	高下 六原	水稻育種研究室 水稻育種研究室
ドレンレイヤー工法現地実証試験 重機の走行がほ場整備後の土壌 均一性に与える影響の解明 均一性に与える影響の解明 ロングマット水耕苗現地実証試験 ロングマット水耕苗現地実証試験 麦・大豆立毛間播種栽培の現地実証	花巻市 宮守村 宮守村 江刺市 北上市 石鳥谷町 花巻市	鍋倉 宮守川上流 宮守川上流 袖野 滑田 新堀 宮野目	生産工学研究室 生産工学研究室 生産工学研究室 生産工学研究室 生産工学研究室 生産工学研究室 生産工学研究室
りんご新台木の現地適応性試験 りんご新台木の現地適応性試験 りんご新台木の現地適応性試験 りんご新台木の現地適応性試験 りんご新台木の現地適応性試験 地域基幹研究体系化総合実証試験	二戸市 紫波町 宮古市 江刺市 一関市 盛岡市	湯田 矢巾 内の沢 小倉沢 花泉中央 都南	園芸畑作部 果樹研究室 果樹研究室 果樹研究室 果樹研究室 果樹研究室 果樹研究室
麦・豆奨励品種決定現地調査 麦・豆奨励品種決定現地調査 麦・豆奨励品種決定現地調査 麦・豆奨励品種決定現地調査 不耕起大豆の超省力安定栽培技術の確立 不耕起大豆の超省力安定栽培技術の確立 水田を活用した持続的体系及び優良種苗の確保によるサトイモ産地強化の実証 雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大	紫波町 東山町 前沢町 藤沢町 玉山村 北上市 北上市 遠野市	水分 長坂 古城 要害 下田 相去 二子 小友	野菜畑作研究室 野菜畑作研究室 野菜畑作研究室 野菜畑作研究室 野菜畑作研究室 野菜畑作研究室 野菜畑作研究室 野菜畑作研究室
沿岸中山間における花き周年生産モデルの確立 りんどう品種育成に係る現地調査 小ぎく品種育成に係る現地調査 鉢物りんどうの栽培試験に係る現地調査 切花りんどうの鉢物化試験	宮古市 石鳥谷町 北上市 北上市 花巻市	老木 北寺林 江釣子 稲瀬 矢沢	花き研究室 花き研究室 花き研究室 花き研究室 花き研究室
水田地帯における園芸生産の高度安定化 「イチゴ栽培における省力技術導入による高度生産化」 東磐井地方における園芸省力安定生産モデル経営の実証 「トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証」	花泉町 大東町	永井 大原	南部園芸研究室 南部園芸研究室

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
有機農産物生産条件の解明 有機農産物生産条件の解明 有機農産物生産条件の解明 生分解性マルチフィルムの分解特性及び作物への影響調査 水田地力富化の実態と適正施肥量指針策定	胆沢町 矢巾町 松尾村 滝沢村 平泉町	若菜 広宮沢 松尾 姥屋敷 北沖	生産環境部 環境保全研究室 環境保全研究室 環境保全研究室 環境保全研究室 環境保全研究室
湛水点播直播栽培の施肥管理技術 土壌蓄積養分の有効利用法 〃 転作麦専用肥料の肥効確認 水稲に対する新ケイ酸質資材の効果	花巻市 花巻市 花巻市 花巻市 雫石町	太田 太田 北湯口 湯口 西安庭	土壌作物栄養研究室 土壌作物栄養研究室 土壌作物栄養研究室 土壌作物栄養研究室 土壌作物栄養研究室
ほうれんそうの内部品質向上のための土壌管理技術の確立	西根町	寺田	保鮮流通技術研究室
複合交信攪乱剤利用りんご園における散布回数削減病害虫防除体系の確立と実証 りんどう病害虫防除体系の確立と実証 水稲初期害虫隔年防除技術の確立 水稲初期害虫隔年防除技術の確立 斑点米カメムシ類の発生生態解明と防除法の確立 新農薬の効果検定と防除基準作成(畑わさび害虫防除試験)	江刺市 花巻市 岩手町 雫石町 花巻市 岩泉町	小倉沢 湯口 黒内 御明神 太田 門	病害虫部 病理昆虫研究室 病理昆虫研究室 病理昆虫研究室 病理昆虫研究室 病理昆虫研究室 病理昆虫研究室 病理昆虫研究室
寒冷地北部におけるホールクロップサイレージ用イネの栽培実証 開発技術導入による良質粗飼料生産・調整・供給システムの確立	紫波町 玉山村	志和 玉山	畜産研究所 飼料生産研究室 飼料生産研究室
畜産由来資源の有効活用技術の開発 畜産由来資源の有効活用技術の開発 地かんがい地帯における野菜・花き等の高収益モデルの実証 作型を利用したレタスの無農薬栽培技術 ほうれんそう収穫・調整機械の開発・改良 短期輪作による環境保全型根こぶ病発病抑止技術の実証 新肥料の実用化 新肥料の実用化 生分解性マルチの現地適応性	軽米町 軽米町 岩手町 遠野市 西根町 西根町 軽米町 軽米町 一戸町	山内 米田 一方井 青笹 田頭 焼走 晴山 山内 奥中山	県北農業研究所 営農技術研究室 営農技術研究室 営農技術研究室 営農技術研究室 営農技術研究室 営農技術研究室 営農技術研究室 営農技術研究室
高付加価値花きの生産技術の現地実証 野菜の省力機械化技術を基幹とした大規模畑輪作技術の実証 県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立 りんどう新肥料の肥効調査	二戸市 大野村 一戸町 軽米町	上斗米 帯島 小友 山内	産地育成研究室 産地育成研究室 産地育成研究室 産地育成研究室
水稲奨励品種決定現地調査 水稲奨励品種決定現地調査 雑穀類の高付加価値技術	種市町 浄法寺町 軽米町	宿戸 浄法寺 高家	やませ利用研究室 やませ利用研究室 やませ利用研究室

内 容 ( 試験研究課題名 )	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
麦・豆奨励品種決定現地調査 大規模野菜専作経営の実証と持続型産地育成 いわてっこの栽培法 いわてっこの栽培法 いわてっこの栽培法 いわてっこの栽培法 いわてっこの栽培法	玉山村 普代村 久慈市 大野村 軽米町 浄法寺町 山形村	下田 和野山 小久慈 萩の渡 山内 大清水 来内	県北農業研究所 やませ利用研究室 やませ利用研究室 やませ利用研究室 やませ利用研究室 やませ利用研究室 やませ利用研究室 やませ利用研究室